

2024(令和6)年度  
リハビリテーション学科  
理学療法学専攻  
シラバス

# リハビリテーション学科 理学療法学専攻 目次

教育課程 (カリキュラムマップ)	3
カリキュラムツリー	4

<b>2年生</b>	5
年間予定表	6
シラバス	9

開講科目	頁
歴史と文化	9
暮らしの中の法律	10
運動学演習	11
内科学	12
神経学	13
臨床医学特論	15
小児科学	16
整形外科学総論	17
整形外科学各論	18
精神医学総論	19
老年学	20
臨床心理学	21
リハビリテーション栄養学	22
救急救命医学	23
公衆衛生学	24
医療関連法規	25

開講科目	頁
骨関節障害理学療法評価学実習	26
神経障害理学療法評価学実習	28
臨床理学療法評価学演習	30
骨関節障害理学療法学	32
骨関節障害理学療法学演習	34
神経障害理学療法学	36
神経障害理学療法学演習	38
内部障害理学療法学	40
内部障害理学療法学演習	42
神経筋疾患理学療法学	44
発達障害理学療法学	45
義肢装具学	46
義肢装具学演習	47
理学療法学特論	48
臨床実習Ⅱ (評価実習)	49
地域理学療法学	50

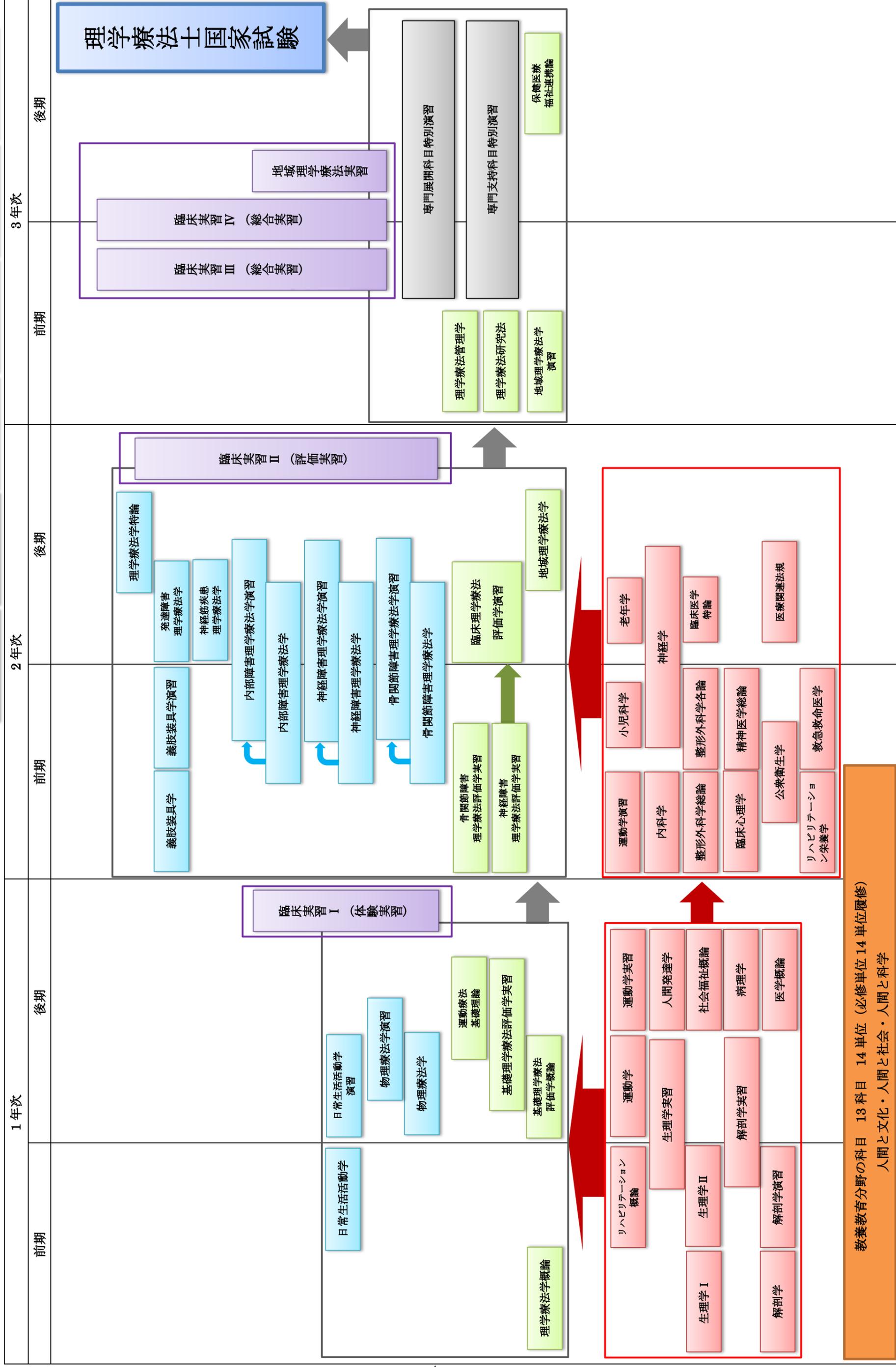
<b>3年生</b>	51
年間予定表	52
シラバス	55

開講科目	頁
理学療法研究法	55
理学療法管理学	56
臨床実習Ⅲ (総合実習)	57
臨床実習Ⅳ (総合実習)	58
地域理学療法実習	59

開講科目	頁
地域理学療法学演習	60
保健医療福祉連携論	61
専門支持科目特別演習	62
専門展開科目特別演習	64

<b>ナンバリング</b>	68
<b>教員一覧</b>	71
<b>実務を有する教員一覧</b>	72
<b>オフィスアワー</b>	73





リハビリテーション学科  
理学療法学専攻  
2年生

【2023(令和5)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土						
4月	31	1	オリテ①	2	①	3	入学式	4	①	5	①	6	
	7	8	健康診断②	9	②	10	①	11	②	12	②	13	
	14	15	③	16	③	17	②	18	③	19	③	20	
	21	22	④	23	④	24	③	25	④	26	④	27	
	28	29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7	⑤	8	④	9	⑤	10	⑤	11
	12		13	⑤	14	⑥	15	⑤	16	⑥	17	⑥	18
	19		20	⑥	21	⑦	22	⑥	23	⑦	24	⑦	25
	26		27	⑦	28	⑧	29	⑦	30	⑧	31	⑧	1
6月	2		3	⑧	4	⑨	5	⑧	6	⑨	7	⑨	8
	9		10	⑨	11	⑩	12	⑨	13	⑩	14	⑩	15
	16		17	⑩	18	⑪	19	⑩	20	⑪	21	⑪	22
	23		24	⑪	25	⑫	26	⑪	27	⑫	28	⑫	29
7月	30		1	⑫	2	⑬	3	⑫	4	⑬	5	⑬	6
	7		8	⑬	9	⑭	10	⑬	11	⑭	12	⑭	13
	14		15	海の日	16	⑮	17	⑭⑮	18	⑮	19	⑮	20
	21		22	⑭⑮	23		24		25		26		27
	28		29		30		31		1	定期試験	2	定期試験	3
8月	4		5	定期試験	6	定期試験	7	定期試験	8	定期試験	9	定期試験予備日	10
	11	山の日	12	振替休日	13		14		15		16		17
	18		19		20		21		22		23		24
	25		26	再試験	27	再試験	28	再試験	29	再試験	30	再試験	31
9月	1		2		3		4		5		6		7
	8		9		10		11		12		13		14
	15		16	敬老の日	17	①	18	①	19	①	20	①	21
	22	秋分の日	23	振替休日	24	②	25	②	26	②	27	②	28
	29		30	①	1	③	2	③	3	③	4	③	5

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土							
10月	29	30	①	1	③	2	③	3	③	4	③	5		
	6	7	②	8	④	9	④	10	④	11	④	12		
	13	14	スポーツの日	15	⑤	16	⑤	17	⑤	18	⑤	19		
	20	21	③	22	⑥	23	⑥	24	⑥	25	⑥	26		
	27	28	④	29	⑦	30	⑦	31	⑦	1	⑦	2		
11月	3	文化の日	4	振替休日	5	⑧	6	⑧	7	⑧	8	⑧	9	
	10		11	⑤	12	⑨	13	⑨	14	⑨	15	⑨	16	
	17		18	⑥	19	⑩	20	⑩	21	⑩	22	⑩	23	勤労感謝の日
	24		25	⑦	26	⑪	27	⑪	28	⑪	29	⑪	30	
12月	1	2	⑧	3		4		5		6		7		
	8	9		10		11		12		13		14		
	15	16		17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験	21		
	22	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験予備日	26		27		28		
	29	30		31		1	元旦	2		3		4		
1月	5	6		7	再試験	8	再試験	9	再試験	10	再試験	11		
	12	13	成人の日	14	再試験	15	再試験	16		17		18		
	19	20		21		22		23		24		25		
	26	27	臨床実習Ⅱ	28	臨床実習Ⅱ	29	臨床実習Ⅱ	30	臨床実習Ⅱ	31	臨床実習Ⅱ	1		
2月	2	3	臨床実習Ⅱ	4	臨床実習Ⅱ	5	臨床実習Ⅱ	6	臨床実習Ⅱ	7	臨床実習Ⅱ	8		
	9	10	臨床実習Ⅱ	11	建国記念の日	12	臨床実習Ⅱ	13	臨床実習Ⅱ	14	臨床実習Ⅱ	15		
	16	17		18		19		20		21		22		
	23	天皇誕生日	24	振替休日	25		26		27		28		1	
3月	2	3		4		5		6		7		8		
	9	10		11		12		13		14		15		
	16	17		18	卒業式	19		20	春分の日	21		22		
	23	24		25		26		27		28		29		
	30	31		1		2		3		4		5		



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	
							授業回数	10 回
授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。							
到達目標	(丸藤) 近現代世界を形成する上で重要な歴史事象について、様々な観点から各回主題を設ける。主題に関する諸問題を学び、近現代の世界に対する知識・理解を深め、歴史に対する関心を育むことを目標とする。 (徳田) 世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。							
学修者への期待等	授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	グローバルエコノミーのはじまり —西欧の拡大により一体化する世界—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
2	科学革命と啓蒙 —近代科学の成立と「知」の大転換—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
3	産業革命 —工業化による経済・社会の変革—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
4	医療の歴史 —医療・医学の発展と近代社会—				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二	
5	現代世界とグローバルヒストリー —現代世界の成立と新しい歴史観—				今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)		丸藤 准二	
6	ユダヤ教について —律法の遵守—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
7	キリスト教について —罪からの救い—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
8	イスラームについて —神への服従—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
9	インドの宗教について —業と輪廻—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
10	仏教について —苦からの解脱—				授業時に配付するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄	
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配付します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	PT・OT合同授業 (評価方法) (丸藤) 試験(筆記)70% 授業態度30% 課題は授業内に解答してフィードバックします。 (徳田) 授業内課題(全5回)100% 授業終了時に実施するチェックテストで評価します。							

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-02				
	●			●						
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	鈴木 一樹		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	<p>法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。</p> <p>さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。</p>									
到達目標	法律とは何か、何のために存在するか、そして日常生活でどう生かされているかを理解する。									
学修者への期待等	法律の考え方は非常に論理的で社会生活においても有用なので、法律的な思考方法を修得できるよう一つひとつ確実に理解するよう努めること。									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス 法律入門									
2	憲法(1)	人権			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
3	憲法(2)	統治			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
4	憲法(3)	憲法総合			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
5	民法(1)	総則			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
6	民法(2)	物権			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
7	民法(3)	債権(債権総論)			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
8	民法(4)	債権(債権各論)			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
9	民法(5)	親族相続			前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
10	まとめ(重要ポイントの振り返り)				前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと(1時間程度)					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	授業内で適宜紹介する。									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。課題については、講義内でフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-10					
		●		●							
科目名	運動学演習				単位 認定者	森永 雄		口頭試問	40 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題 (レポート)	40 %
						授業形態		演習		授業回数	30 時間
								15 回			
授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。										
到達目標	<p>【実践力】 初歩的な関節運動、バランス、基本動作の仕組みを理解し、言語的かつ身体的に適切に表現することができる。</p> <p>【人間関係力】 メンバーの考えや状況を把握し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図ることができる。</p> <p>チームで生じている対立があった場合に、自ら調整するよう働きかけることができる。</p> <p>【生涯学習力】 発表準備を通して、その他の著書や複数の参考文献を調べ読み、効果的に活用することができる。</p> <p>生じている課題や問題点の一部を切り取り、自ら目標設定し、課題克服に向けた取り組みができる。</p>										
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科目目標の枠を越え、自身が志す理想の理学療法士像に対応した動作分析力の構築に努めましょう。</li> <li>・ 授業後の自己学修を通して、信頼性の高い文献を収集し、読み解く能力を高めましょう。</li> </ul>										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	筋力・筋機能と筋の基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)				森永 雄		
2	筋力・筋機能① (HHDを用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)				森永 雄 小松 佳路		
3	筋力・筋機能② (BIODEXを用いた測定) 【実験、グループワーク】								森永 雄 坂上 尚穂		
4	発表と筋力・筋機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】								森永 雄 小松 佳路		
5	バランス機能とバランスの基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)				森永 雄		
6	バランス機能① (重心動揺計を用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)				森永 雄 坂上 尚穂		
7	バランス機能② (EMGを用いた測定) 【実験、グループワーク】								森永 雄 小松 佳路		
8	発表とバランス機能のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】								森永 雄 坂上 尚穂		
9	基本動作と動作分析のための基本的事項 【一部、反転学習含む】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)				森永 雄		
10	動作分析① (三次元動作解析装置を用いた測定) 【実験、グループワーク】				全体発表とレポートの作成・準備を行うこと (予習復習あわせて30分程度)				森永 雄 小松 佳路		
11	動作分析② (ビデオを用いた測定) 【実験、グループワーク】								森永 雄 坂上 尚穂		
12	動作分析③ (グループワーク) 【実験、グループワーク、ディスカッション】								森永 雄 小松 佳路		
13	発表と動作分析のまとめ 【学生によるプレゼンテーション、ディベート】								森永 雄 坂上 尚穂		
14	運動学のための人体解剖見学実習① 【一部の反転学習含む、フィールドワーク】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)				森永 雄 小松 佳路		
15	運動学のための人体解剖見学実習② 【フィールドワーク】				LMSに掲載された資料を確認すること (60分程度)				森永 雄 坂上 尚穂		
教科書	『基礎運動学第6版補訂』中村隆一・他、医歯薬出版 *1年次購入済み										
参考文献	『身体運動学 関節の制御機構と筋機能』市橋則明・他、メディカルビュー ・LMSに掲載された参考文献、資料										
備考	<p>【特性】 ICT教育、測定機器を用いた演習、実験形式が中心。</p> <p>【評価】 「授業内課題(レポート)」は、①筋力・筋機能、②バランス機能、③動作分析、④運動学のための人体解剖の4つのテーマに関する個人レポートが対象であり、予め準備したルーブリックに則り、採点を行う。後日、LMSのフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスを行う。「口頭試問」は、運動学的な基本知識や授業1、5、9回の内容を加味し、試験を行う。「受講態度」は、実験中の学習態度やグループ活動に対する貢献度、発表・聴講態度、授業後のリフレクション、出欠などを採点対象とする。</p>										

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永雄：動作分析(分析のための機器利用)に関する長年の臨床経験・研究の経験あり。また、9年間における運動学関連科目(とりわけ身体運動)の教育経験あり、この経験を基に、講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-03			
		●		●					
科目名	内科学				単位認定者	宮城 重人		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本講義では、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候学、治療等について学ぶとともに、腹部内臓器の諸疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、その他さまざまな疾患についての理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。								
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために1) 医学用語を間違いなく読みかつ書け、意味を理解し正しく表出できること。2) 各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する(疾患の全身に及ぼす機序を理解する)。3) 国家試験に備え知識を整理する。								
学修者への期待等	医療従事者になるために勉強するのだという責務と緊張感を持って授業に臨んでほしい。授業内容が広範であり、修得すべき知識も膨大であるから、授業中に要点を理解しておき細部については自己学修する姿勢が大切である。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	「医をまなぶ」医学への関心度(一般的な医学情報に対する質問)			医学一般に関する学修			田林 暁一		
2	循環器疾患1 総論(症状・診断)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二朗		
3	循環器疾患2(動脈硬化性疾患)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二朗		
4	循環器疾患3(不整脈)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度) 特に心電図診断について			赤松 大二朗		
5	消化器疾患1 肝胆膵腹膜疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に食道癌 胃癌 大腸癌について			宮城 重人		
6	消化器疾患2 臓器移植			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人		
7	消化器疾患3 消化器疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に肝硬変、肝癌について			宮城 重人		
8	腎泌尿器疾患 総論・各論			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人		
9	呼吸器疾患1 総論(症状・診断)			教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について(概ね30分程度)			渡辺 卓		
10	呼吸器疾患2 各論			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)特に閉塞性肺疾患 肺炎 肺癌 呼吸リハについて			渡辺 卓		
11	内分泌疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
12	代謝性疾患(肥満、メタボリック症候群)			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
13	代謝性疾患(糖尿病、脂質代謝異常)			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
14	血液疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に貧血の分類について			渡辺 卓		
15	免疫疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』奈良 勲 著、医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-05			
		●		●					
科目名	神経学				単位 認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	60 時間	
							授業回数	30 回	
授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士作業療法士に必要な神経学的診療ができるように、授業では動画供覧、実演する。</li> <li>・神経症候の基礎と神経・筋疾患の臨床を理解でき、臨床実習では実際の症例で確認できるようになる。</li> <li>・疾患の理解に必要な画像診断や検査について説明できるようになる。</li> </ul>								
学修者への 期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経・筋疾患は理学療法・作業療法の対象となる疾患も多い。しっかり予習・復習をして授業に臨むこと。</li> <li>・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後はノートやLMS資料への書き込み等を整理し復習に重点を置くこと。</li> </ul>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	神経系の構造と機能(1) 神経系総論、神経組織				教科書p14~31『中枢神経系の解剖と機能』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
2	神経系の構造と機能(2) 中枢神経系				教科書p25-26、56-57『末梢神経の構造』と関連する分野を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
3	神経学的診断：神経学的診察の実際				教科書p35-50『神経学的診断と評価』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
4	神経学的検査法(1) 画像診断				教科書p51-56『神経学的検査法：画像診断』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
5	神経学的検査法(2) 神経生理学的検査				教科書p56-67『神経学的検査法：神経生理学的検査他』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
6	神経症候学(1) 運動麻痺				教科書p79-88『運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
7	神経症候学(2) 錐体路徴候：痙縮(痙性麻痺)				教科書p79-88『運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
8	神経症候学(3) 錐体外路徴候：固縮、不随意運動				教科書p89-93『錐体外路徴候、不随意運動』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
9	神経症候学(4) 運動失調				教科書p94-98『運動失調』、p99-106『感覚障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
10	神経症候学(5) 高次脳機能障害① 総論、失語(症)				教科書p107-119『高次脳機能障害：総論/失語症』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
11	高次脳機能障害② 失認(症)、失行(症)				教科書p120-136『高次脳機能障害：失認/失行』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
12	高次脳機能障害③ 記憶、知能				教科書p137-142『高次脳機能障害：記憶障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
13	神経症候学(6) 嚥下障害				教科書p152-156、157-163『嚥下障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
14	神経症候学(7) 排尿障害				教科書p351-355『排尿障害』を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
15	総括 神経学的診察のデモンストレーションとDVD『神経診察法』供覧				1-14回の授業資料の整理(概ね1時間程度)			佐直 信彦	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳血管疾患(1) 定義、分類・診断、症候学、治療、予後	教科書p173-182『IV神経疾患各論 脳血管障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
17	脳血管疾患(2) リハビリテーション、在宅支援	教科書p173-182『IV神経疾患各論 脳血管障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
18	脳損傷 外傷性脳損傷の受傷機転、分類、症候学的特異性、治療・リハビリテーション	教科書p231-237『外傷性脳損傷(軸索障害を含む)』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
19	認知症 定義、病型と診断、薬物療法とリハビリテーション	教科書p204-223『認知症』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
20	脊髄損傷(1) 発症機序と神経症候、ASIA高位診断	教科書p238-239『脊髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
21	脊髄損傷(2) 機能予後、合併症、リハビリテーション	教科書p238-239『脊髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
22	末梢神経障害(1) 末梢神経損傷	教科書p275-283『末梢神経障害』前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
23	末梢神経障害(2) 末梢性ニューロパチー	教科書p275-283『末梢神経障害』後半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
24	変性疾患・脱髄疾患 脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症	教科書p253-261『変性疾患・(錐体外路系除く)・脱髄疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
25	錐体外路の変性疾患 Parkinson病の病態、治療	教科書p262-274『錐体外路の変性疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
26	筋疾患 筋ジストロフィー、多発性筋炎・皮膚筋炎、筋無力症	教科書p288-301『筋疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
27	脳腫瘍 分類と好発部位、症状の特殊性、診断・治療	教科書p224-230『脳腫瘍』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
28	感染性疾患、内科疾患に伴う神経・筋疾患、栄養欠乏による神経疾患、中毒性神経疾患 病因、症状、検査、診断・治療法、予後	教科書p302-310『感染性疾患』、p311-315『中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
29	小児神経疾患：脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群	教科書p316-336『小児神経疾患』を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
30	神経学 後期 総括	16-29回の授業資料の整理・復習(概ね1時間程度)	平山 和美
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学』川平和美編、医学書院		
参考文献	『ベッドサイドの神経の診かた』田崎義昭・斎藤佳雄著、坂井文彦改訂 南山堂、図書館蔵 その他、授業中に紹介		
備考	PT・OT合同授業 授業資料等はLMSに掲載する。 授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。		

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直：医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-12				
		●		●						
科目名	臨床医学特論				単位認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	本講義は、「疼痛」、「がん」、「皮膚障害」に関する3分野のオムニバスで構成される。「疼痛分野」では、痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「がん」分野では、がん関連障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「皮膚障害分野」では、熱傷、褥瘡、創傷を中心とした病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。									
到達目標	①痛みの定義、病態と分類、痛みの評価、マネジメントを説明できる。 ②原発臓器別にがんの特徴と原因、分類、主な診断・治療について説明できる。 ③代表的な皮膚障害の病態や診断・治療を説明でき、理学療法・作業療法のなかに展開できる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。</li> <li>授業後は復習を必ず行い、わからないことがあれば積極的に質問を行うこと。</li> <li>常に疑問をもち課題等に取り組む。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	痛みとは(定義・分類)				『痛みとは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
2	急性痛(病態・評価・マネジメント)				『急性痛とは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
3	慢性疼痛(分類・病態)				『慢性疼痛とは何か』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね45分程度)			大友 篤		
4	慢性疼痛(評価)				『慢性疼痛の評価』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
5	慢性疼痛(マネジメント)				『慢性疼痛のマネジメント』参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
6	がんの発生機序や病態について				がん発生の機序について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
7	各がん疾患の特徴について				胸部、消化器、泌尿器、女性生殖器等のがん疾患について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
8	皮膚障害(熱傷・褥瘡・創傷)				熱傷・褥瘡・創傷について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
教科書	特に指定しない。講義資料を配付又はLMS上に投稿する。									
参考文献	『ペインリハビリテーション 第1版』松原貴子・沖田実・森岡周編、三輪書店 『慢性疼痛診療ハンドブック 第1版』池本竜則・愛知医科大学運動療育センター講師編、中外医学社 『痛みの集学的診療 第1版』日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会編、真興交易 『内部障害理学療法学テキスト 改定第3版』細田多穂 編、南江堂 『がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版』日本がんリハビリテーション研究会、金原出版									
備考	P T・O T合同授業 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は第1回～5回講義担当教員から出題され、講義終了後1週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点后希望者にはフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

荒牧隼浩：当該教科担当者は急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-06				
		●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学習する。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現（他人に知らせる）することが出来るように努力すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。（概ね1時間程度）					
2	免疫・アレルギー疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
3	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）					
4	呼吸器・循環器疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。（概ね1時間程度）					
5	新生児疾患・消化器・内分泌疾患				【事前】新生児特有の生態を理解しておく。消化器の構造、機能および内分泌の仕組み（特にフィードバック）について理解しておく。（概ね1時間程度）					
6	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）					
7	腎・泌尿器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）					
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』前垣 義弘、小倉 加恵子 編、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-07			
		●		●					
科目名	整形外科学総論				単位認定者	入江 紀一		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	整形外科学は運動器の疾患を取り扱う。運動器には脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、腱、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態は、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害など他の診療科と共通の病態と、先天性障害や変形、外傷など運動器に特徴的な病態がある。本講義では、これらの運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。								
到達目標	1. 整形外科で扱う運動器の疾病や外傷並びに先天性障害の病態、治療が理解できるようになる。 2. 運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法・作業療法を展開できるようになる。								
学修者への期待等	2年次は、実際の臨床症例を呈示しながら、疾患や外傷について学び、整形外科に関心を持ってもらう。教科書通りの講義ではないが、国家試験に出題されている項目は他科(解剖学、生理学等)の領域も含めて一応網羅しているので、総合的に学ぶように努めること。								
回	授業計画				準備学修				
1	歴史 整形外科の歴史				教科書の序章(整形外科とは)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
2	整形外科の基本 ①骨の構造 成長と維持 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第1～4章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
3	整形外科の基本 ②関節の構造 骨・軟骨の再生 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第5～7章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
4	整形外科の基本 ③筋・神経の構造と機能				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第8～9章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
5	診断 診察と検査				教科書の第II編(整形外科診断総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
6	治療 保存療法と手術療法				教科書の第III編(整形外科治療総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
7	疾患総論 ①感染症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第16章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
8	疾患総論 ②関節リウマチ				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第17章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
9	疾患総論 ③変形性関節症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第18章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
10	疾患総論 ④先天性骨系統疾患 先天異常症候群 ⑤骨腫瘍				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第20～21、23章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
11	疾患総論 ⑥循環障害 代謝障害による骨疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第19章、第22章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
12	疾患総論 ⑦神経・筋疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第25章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
13	外傷総論 ①骨折、捻挫、脱臼				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
14	②骨折の治療と合併症				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
15	③神経損傷(脊髄・末梢神経)				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第39・40章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
教科書	『標準整形外科学』田中栄、高木理彰、松田秀一編 井樋栄二、津村弘監修、医学書院								
参考文献	特に指定しない								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-08			
		●		●					
科目名	整形外科学各論				単位認定者	佐々木 広人		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数			15 回
授業の概要	本講義では「整形外科学総論」で学修した内容をもとに、理学療法士の対象疾患について疾患別、部位別の病因、病態、診断、治療について系統的に学修する。さらに、運動器の障害は運動・動作・行為を制限し、生活の質(QOL)の低下をもたらすことから、疾病の診断・治療のみならず、生活支援をも含む内容を学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各整形外科疾患の特徴と病態を説明することができる。</li> <li>各整形外科疾患に対する治療、リハビリテーションの位置付けについて説明することができる。</li> <li>運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法を展開できるようになる。</li> </ul>								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義に臨むにあたり、当該範囲に関する事前事後学修を必ず行うこと。</li> <li>本講義内容を理解した上で、「骨関節障害理学療法学」の学修に活かすこと。</li> </ul>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	理学療法の対象となる整形外科疾患				配布資料を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
2	肩関節の疾患				教科書第V編第27章(肩関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
3	肘関節の疾患				教科書第V編第28章(肘関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
4	手関節と手の疾患				教科書第V編第29章(手関節と手)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
5	頸椎・胸郭の疾患				教科書第V編第30,31章(頸椎、胸郭)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
6	胸椎・腰椎の疾患				教科書第V編第32章(胸椎、腰椎)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
7	股関節の疾患				教科書第V編第33章(股関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
8	股関節の疾患				教科書第V編第33章(股関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
9	膝関節の疾患				教科書第V編第34章(膝関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
10	膝関節の疾患				教科書第V編第34章(膝関節)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
11	足関節と足の疾患				教科書第V編第35章(足関節・足)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
12	軟部組織損傷				教科書第VI編第37章(軟部組織損傷)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
13	スポーツ外傷				教科書第VII編第41章(スポーツ損傷)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
14	スポーツ障害				教科書第VII編第41章(スポーツ損傷)を予習・復習すること(概ね30分程度)			佐々木 広人	
15	障害者スポーツ				教科書第VII編第42章(パラスポーツ)を予習・復習すること(概ね30分程度)			小松 佳路	
教科書	『標準整形外科学 第15版』井樋栄二他編、医学書院* *整形外科学総論と同じ教科書を使用する								
参考文献	『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』								
備考	A B 合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

佐々木広人：整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。  
小松佳路：複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-09			
		●		●					
科目名	精神医学総論				単位認定者	三輪 真也		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について広く学び、その障害を持つ患者の理解に必要な基本的事項や臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。								
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できる。								
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。								
回	授業計画				準備学修				
1	こころ(精神)とは何かを学修する(心の構造について理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
2	こころ(精神)とは何かを学修する(心と環境のかかわりについて理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
5	神経症性障害について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
6	心身症について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
9	統合失調症の病態について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
10	統合失調症の経過と治療について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
11	気分障害について学修する				教科書10章(気分(感情)障害)を読む(概ね1時間程度)				
12	発達障害、自閉スペクトラム症について学修する				教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む(概ね1時間程度)				
13	器質性精神障害全般について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
14	認知症を呈する脳疾患について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
15	補足、まとめ				第14回に指定のあった教科書範囲を読む(概ね1時間程度)				
教科書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』奈良 勲 著、医学書院								
参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-13			
		●		●					
科目名	老年学				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	高齢化の加速に伴って、リハビリテーションの対象としての高齢者が増えると考えられる。老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学ぶとともに、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。								
到達目標	1. 老化の生物学的意義と老化理論を理解し、説明できるようになる。 2. 加齢に伴う人体並びに諸機関の構造・機能の変化を理解し、説明できるようになる。 3. 老化現象と疾病並びに生活機能の関係を理解し、理学療法、作業療法に展開できるようになる。 4. 高齢者をめぐる現状と課題について理解し、将来の変遷に対処できるようになる。								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間中に授業内容を理解する。解らないことは積極的に質問する。</li> <li>授業の資料やノートを整理し、復習する。</li> </ul>								
回	授業計画				準備学修				担当
1	老年学と老化学 I 老化とは II 老化の測定				LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)				佐直 信彦
2	III 老化の理解：細胞老化、 老化の機序と制御								佐直 信彦
3	加齢による変化 総論 ①全般的身体的・機能的変化 ②組織レベルの変化 加齢による変化 各論 A神経・筋系、B感覚系								佐直 信彦
4	C骨・運動器、D循環器系、E呼吸器系、F消化器系、G排尿機能、 H体温調節、I免疫機能、J内分泌機能、K生体リズム、 L高次脳機能、M心理社会面								佐直 信彦
5	老年症候群：概念、分類、虚弱・衰弱・老衰、フレイル、 低栄養、サルコペニア、不眠、転倒・骨折								戸田 祐子
6	ロコモティブシンドローム：定義、症候・徴候、 判定・診断								金谷 さとみ
7	高齢者とリハビリテーション： 高齢者の特徴、機能障害に影響する要因、高齢者のリハビリテーションと特異性								戸田 祐子
8	高齢者をめぐる現状と課題： 2025年問題、地域包括ケアシステム、地域連携の重要性								戸田 祐子
教科書	教科書指定せず。								
参考文献	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学』大内尉義編、医学書院(図書館蔵) 『新老年学』大内尉義・他編、東京大学出版会(図書館蔵)								
備考	P T・O T合同授業 当該授業資料・狙いと課題をLMS上に掲載します。それに従って予習復習をしてください。授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。個別には教員研究室にて対応する。								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直は、医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-10				
		●		●						
科目名	臨床心理学				単位認定者	村椿 智彦		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	15 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	5 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。									
到達目標	臨床心理学の知識を習得して支援を必要とする対象の心理行動的側面を理解できるようになること、そしてそれに基づいて適切な支援をできるようになること。									
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 毎回、小テストを実施するため予習を行うとともに、真摯な態度で受講すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	リハビリテーションと臨床心理学				【予習】教科書p.8～15を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
2	臨床心理学とは				【予習】教科書p.64～71を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
3	治療者-患者関係(共感・傾聴・ラポール・カタルシス、転移と逆転移)				【予習】教科書p.74～77を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
4	障がい受容の過程				【予習】教科書p.78～79を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
5	心理アセスメント				【予習】教科書p.80～87を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
6	心理検査(1) 人格検査、知能検査				【予習】教科書p.88～91を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
7	心理検査(2) 発達検査、認知機能検査				【予習】教科書p.92～95を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
8	支持的精神療法と集団精神療法				【予習】教科書p.114～117を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
9	心理療法の理論と技法(1) 精神分析、防衛機制				【予習】教科書p.72～73、p.104～105を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
10	心理療法の理論と技法(2) 行動療法、学習(レスポナント条件付け、オペラント条件付け)				【予習】教科書p.44～47、p.96～99を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
11	心理療法の理論と技法(3) 認知行動療法、情動理論				【予習】教科書p.32～33、p.100～101を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
12	心理療法の理論と技法(4) 自律訓練法、バイオフィードバック、社会生活技能訓練				【予習】教科書p.102～103を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
13	心理療法の理論と技法(5) 来談者中心療法、交流分析				【予習】教科書p.110～113を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
14	心理療法の理論と技法(6) 芸術療法(絵画療法、箱庭療法)				【予習】教科書p.108～109を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
15	心理療法の理論と技法(7) 内観療法、森田療法				【予習】教科書p.106～107、p.118～119を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
教科書	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』内山靖 他 編 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業時に随時紹介する。									
備考	P T・O T合同授業。小テストは答え合わせ、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-04				
		●		●						
科目名	リハビリテーション栄養学				単位認定者	岩間 正典 高泉 佳苗	評価の方法	試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数		1 単位	受講態度	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数		16 時間		
				授業形態	講義	授業回数		8 回		
授業の概要	栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。本講義では、栄養に関する基礎事項について学修し、理学療法・作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学ぶ。									
到達目標	1. 栄養について基本的知識を習得し、説明できる。 2. 理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、説明できる。									
学修者への期待等	リハビリテーションに必要な栄養の基礎知識を身につけて、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を理解してください。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	栄養学概論：リハビリテーションにおける栄養知識の重要性について				教科書序章をよく読んで概要を理解しておくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
2	栄養素の消化と吸収				教科書第1章3「栄養素の役割」を読んでおくこと。（概ね30分）		岩間 正典			
3	エネルギー代謝、食事摂取基準				授業で学んだ「日本人の食事摂取基準」について復習すること。（概ね30分）		岩間 正典			
4	運動時の栄養管理				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
5	栄養補給法、栄養ケアプロセス				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
6	病態別の栄養管理（1）：低栄養、過栄養				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
7	病態別の栄養管理（2）：摂食嚥下障害、フレイル、サルコペニア				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
8	疾患別の栄養管理：術前・術後、脳卒中、がん、大腿骨近位部骨折				授業内容を復習すること。（概ね30分）		高泉 佳苗			
教科書	『リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎』 栢下淳・若林秀隆編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養』 若林秀隆著、医歯薬出版株式会社									
備考	P T ・ O T 合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

高泉：管理栄養士として病院における栄養管理の実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-11				
		●		●						
科目名	救急救命医学				単位認定者	伊藤 大亮		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本講義では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。</li> <li>救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。</li> <li>災害医療について理解できるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	応急手当の基礎知識 I 応急手当と救命処置・II 救命の連鎖と住民の役割・III 突然の心停止を防ぐために				テキスト §1 応急手当の基礎知識にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
2	救命処置① I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの手順)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
3	救命処置② I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
4	救命処置③ I 救命処置の流れ(心肺蘇生法とAEDの使用) II 救命処置の手順(心肺蘇生法・AEDの使用手順) 簡易訓練人形とAED(紙)による演習(2人1組)				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
5	救命処置④ II 救命処置の手順(気道異物の除去) III 乳児の救命処置				テキスト §2 救命処置にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
6	その他の応急手当① I 傷病者の管理法(安全・保温・体位) II 止血法(直接圧迫止血法)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
7	その他の応急手当② I 傷病者の管理法(安全・保温・体位) II 止血法(直接圧迫止血法) III 病気やけがに対する応急手当				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド)にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
8	その他の応急手当③ III 病気やけがに対する応急手当 (三角巾の使用・搬送法など) その他(119番通報と救急車の呼び方)				テキスト §3 その他の応急手当(ファーストエイド) §4 その他にて予習すること。(概ね1時間)		堀口 雅司			
9	災害医療の基礎知識				災害医療に関する知識について調べておくこと。		江川 新一 伊藤 大亮			
10	わが国の災害医療体制とリハビリ				災害医療に関する知識について調べておくこと。		江川 新一 伊藤 大亮			
11	避難所運営ゲーム(HUG)①グループワーク				避難所運営ゲーム(HUG)について調べておくこと。		江川 新一 坂上 尚徳 佐々木 広人 伊藤 大亮 荒牧 隼浩 熊谷 竜太 高橋 慧			
12	避難所運営ゲーム(HUG)②グループワーク				グループワークの課題作成をしておくこと。					
13	手当・一次救命処置(BLS)の実際(1)グループワーク				BLSについて、予習しておくこと。		坂上 尚徳 佐々木 広人 伊藤 大亮 荒牧 隼浩 須藤 あゆみ 戸田 祐子			
14	手当・一次救命処置(BLS)の実際(2)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。					
15	手当・一次救命処置(BLS)の実際(3)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。					
教科書	『改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに』制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	『災害リハビリテーション標準テキスト』『リハベーシック 安全管理学・救急医療学』医歯薬出版株式会社									
備考	クラス編成 1回目～12回目：P T・O T合同、13回目～15回目 P TはA Bクラスに分かれて実施、O Tは単独実施									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

伊藤大亮：大学病院にて長年理学療法業務に従事し、十分な臨床実務経験を有する。内部障害チーム所属時はリハ部門内救急救命教育に従事した経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-03				
		●		●	●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	理学療法士は、対象者の健康に関連した諸問題に向き合うことが求められる。本科目では、その基本をなす「健康」とは何かについて学び、健康を維持するための基本的な知識を学ぶとともに、社会生活を送る対象者のライフスタイルが健康にどのような影響を及ぼすか、効果的な方法論は何かなどについて幅広く学習する。									
到達目標	1. 健康とは何かを知り、健康を守るための公衆衛生学について系統的に学修する。 2. 理学療法士および作業療法士に関係する保健活動について説明できる。									
学修者への期待等	教科書を中心に進めるので、各自記録しながら受講すること。講義の予習としては、難しい内容なので教科書を一読してくる。復習については、学んだ内容をノートに整理する。日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けるよう心掛ける。									
回	授業計画				準備学修					
1	衛生学、公衆衛生学の概要と保健統計について				教科書第1～2章（衛生学・公衆衛生学序論、保健統計）					
2	疫学の概要と疫学研究について				教科書第3章（疫学の基本、疫学研究の方法など）					
3	疾病予防と健康管理の方法論				教科書第4章（疾病リスクと予防医学、疾病予防の段階、健康増進、健康政策などについて）					
4	主な疾病の予防について～感染症、循環器系、その他～				教科書第5章（感染症、循環器系疾患、糖尿病・脂質異常症・痛風などの疾患と予防対策について）					
5	主な疾病の予防について～がん、腎疾患、アレルギー疾患、その他～				教科書第5章（がん、腎疾患、アレルギー疾患、不慮の事故、自殺などの疾患と予防対策について）					
6	環境保健（環境の把握と対策、健康を害する物理的・化学的・生物的環境要因とその対策）				教科書第6章（環境保健の概要、大気汚染、水の衛生、廃棄物、公害問題、その他）					
7	地域保健と保健行政（母子保健、学校保健、産業保健）				教科書第7～10章（地域コミュニティの基本、地域のアセスメントと対策、母子保健、学校保健、産業保健の基本とその活動内容）					
8	高齢者保健・精神保健の概要と対策などについて				教科書第11～13章（高齢者保健、精神保健の保健活動とその課題、国際保健医療などについて）					
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学 2024』（2024年発行・最新版）辻一郎/小山洋 南江堂									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-04				
		●		●						
科目名	医療関連法規				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	医療従事者である理学療法士・作業療法士が、理学療法士及び作業療法士法だけでなく、医療の内容を規定する医療法、医師をはじめとする医療関係職の資格法、保健医療制度、社会保障制度ならびに介護保険法など関連する法規を理解しておくことは専門職として必須である。理学療法士・作業療法士として知っておくべき基本的な法規、社会保障制度とヘルスケア及びリハビリテーション・サービスの体制を学修する。									
到達目標	1. 保健医療、社会保障制度（年金、医療保険、介護保険）地域保健法について概要を理解できるようになる。 2. 現代社会において社会保障施策がどのような役割を果たしているのか、また今後の課題について、どのような対応が望まれるのかを学ぶ。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取り上げた内容は授業中に理解できるように集中し、解らない箇所は質問してください。</li> <li>・授業後はノート等を整理し、復習に重点を置いてください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修					
1	社会保障の概念と歴史				教科書 p. 1～13 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
2	日本における社会保障の形成と展開				教科書 p. 13～27 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
3	わが国の年金保険制度の仕組み				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
4	国民年金、厚生年金保険、共済年金の概要				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
5	医療保険制度の仕組み				教科書 p. 81～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
6	医療保険制度の概要（健康保険、国民健康保険）				教科書 p. 86～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
7	医療法と地域保健法				教科書 p. 101～106 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
8	介護保険制度の概要				教科書 p. 111～120 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
教科書	『新・社会福祉士シリーズ第12巻 社会保障』（責任編集＝阿部裕二・熊沢由美）弘文堂									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-03				
		●	●	●						
科目名	骨関節障害理学療法評価学実習				単位認定者	佐々木 広人		試験(実技)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	試験(筆記)	50 %
							授業時間数		44 時間	
				授業形態	実習	授業回数	22 回			
授業の概要	骨関節障害理学療法評価学実習では、主として整形外科疾患の病態を把握するための検査手技や骨関節障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を習得する。また、骨関節障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、骨関節障害における理学療法評価について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨関節障害に対する各種評価が実践できるようになる。</li> <li>骨関節障害症例の諸症候について理学療法士的視点で分析できるようになる。</li> <li>骨関節障害症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。</li> <li>講義内でのグループ学修を主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。</li> <li>講義の理解度（到達度）を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	運動器障害における理学療法評価総論				配付資料の「総論」の予習復習（概ね30分程度）			原 和彦		
2	アライメント評価 静的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習（概ね30分程度）			佐々木 広人 小松 佳路		
3	アライメント評価 動的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習（概ね30分程度）			佐々木 広人 小松 佳路		
4	健常者を対象としたアライメント評価と臨床推論の実際～グループワークに症例検討～				グループワーク・発表準備（概ね1時間）			佐々木 広人 小松 佳路		
5	健常者を対象としたアライメント評価と臨床推論の実際～グループワーク 発表～				グループワーク・発表準備（概ね1時間）			佐々木 広人 小松 佳路		
6	上肢運動器系の検査 肩関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 肩関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
7	上肢運動器系の検査 肘関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 肘関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
8	上肢運動器系の検査 手関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 手関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
9	下肢運動器系の検査 股関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
10	下肢運動器系の検査 股関節・膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股・膝関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
11	下肢運動器系の検査 膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 膝関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
12	下肢運動器系の検査 足関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 足関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
13	脊柱・骨盤の検査 頸部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 頸部」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
14	脊柱・骨盤の検査 腰部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		
15	脊柱・骨盤の検査 骨盤				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 仙腸関節」の予習復習（概ね30分程度）			小松 佳路 伊藤 大亮		

回	授業計画	準備学修	担当
16	計測機器を用いた筋力測定 (HHD)	配付資料「筋力測定」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人 小松 佳路
17	計測機器を用いた筋力測定 (BIODEX)	配付資料「筋力測定」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人 小松 佳路
18	持久力の評価 (体力、運動耐容能)	配付資料「持久力評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
19	パフォーマンス評価 (BBS、SPPB)	配付資料「パフォーマンス評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
20	疼痛の評価 (運動器に関連した疼痛評価)	配付資料「疼痛評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
21	まとめ・症例検討の進め方 (臨床思考過程 評価)	配付資料の「まとめ」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
22	まとめ・症例検討の進め方 (臨床思考過程 まとめ)	配付資料の「まとめ」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
<b>教科書</b>	『PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第2版』下田信明他編、羊土社* *1年次購入済み		
<b>参考文献</b>	『PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査』伊藤俊一監修、三輪書店 『運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ・Ⅱ』David J. Magee、エルゼビア・ジャパン 『図解理学療法検査・測定ガイド』第2版 奈良勲、内山靖、文光堂 『理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際』市橋則明、文光堂 『理学療法評価学』改訂第6版 松澤正、江口勝彦、金原出版株式会社		
<b>備考</b>	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課すことがある。 その場合は、次回講義時に返却・解説する。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

佐々木広人：整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。  
小松佳路：複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-04				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法評価学実習				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(小テスト・レポート)	10 %
							授業時間数		44 時間	試験(実技)
				授業形態	実習	授業回数			22 回	
授業の概要	神経障害理学療法評価学実習では、主として神経疾患の病態を把握するための検査手技や神経障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を習得する。また、神経障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、神経障害における理学療法評価について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>神経障害に対する各種評価が実践できるようになる。</li> <li>神経障害の諸症候について理学療法士の視点で分析できるようになる。</li> <li>神経障害の症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。</li> <li>講義内でのグループワークを主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。</li> <li>講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	中枢神経疾患における検査の目的と意義				講義内容を確認するため、シラバスを持参すること。生理学等で学んだ神経系の知識を復習しておくこと(60分)			小関 友記		
2	意識障害の検査、認知機能検査				教科書①p210～222(特にJCS)、教科書②p102～107のHDS-R・MMSEについて予習すること(30分)意識障害検査・認知機能検査について小テストを実施するため準備すること			小関 友記 森永 雄		
3	筋緊張検査				教科書①p62～69について予習すること(60分)			小関 友記		
4	筋緊張検査(実技)				筋緊張について小テストを実施するため準備すること			小関 友記 森永 雄		
5	反射検査				教科書①p126～p141について予習すること(60分)			小関 友記		
6	反射検査(実技)				反射について小テストを実施するため準備すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
7	感覚検査(感覚概論、表在覚、深部覚)				教科書①p142～173について予習すること(60分)			森永 雄		
8	感覚検査(実技)				感覚について小テストを実施するため準備すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
9	中枢神経運動麻痺概論・ブルンストロームステージ				教科書①p70～73、教科書②p351について予習すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
10	運動麻痺に関わる諸検査(上田式12段階など)				ブルンストロームステージについて小テストを実施するため準備すること。(60分)			小関 友記 森永 雄		
11	協調運動障害(失調)検査(講義・グループワーク)				教科書①p174～189、教科書②p308～p318について予習すること(60分)			小関 友記		
12	協調運動障害(失調)検査(実技)				協調運動障害について小テストを実施するため準備すること。(60分)			小関 友記 森永 雄		
13	姿勢・歩行の評価(講義・グループワーク)				教科書①p110～125について予習すること(60分)			森永 雄		
14	姿勢・歩行の評価(実技)				姿勢・歩行についてレポートを課す。(60分)			小関 友記 森永 雄		
15	姿勢反射(講義・グループワーク)				教科書②p279～293について予習すること(60分)			小関 友記		

回	授業計画	準備学修	担当
16	姿勢反射（実技）	姿勢反射について小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
17	バランスパフォーマンステスト（講義・グループワーク）	教科書②p293～307について予習すること（30分）	小関 友記
18	バランスパフォーマンステスト（実技）	バランスパフォーマンステストについて小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
19	脳卒中機能評価（SIAS・Fugl-Meyer・NIHSS・Motor Assessment Scale）	教科書②p451～455について予習すること（30分）。脳卒中機能評価について小テストを実施するため準備すること。	小関 友記 森永 雄
20	脳神経検査（講義・グループワーク）	教科書①p8～61、教科書②p96～101について予習すること（60分）	小関 友記
21	脳神経検査（実技）	脳神経検査について小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
22	実際の症例に対する検査測定の意味	これまで講義で学んだ検査測定全般について復習しておくこと（60分）	小関 友記
<b>教科書</b>	①『神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ』鈴木則宏編集、MEDICAL VIEW ②『PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学』下田信明他編、羊土社* *1年次購入済み		
<b>参考文献</b>	『ベッドサイドの神経の診かた』第18版 田崎義昭、斎藤佳雄、南山堂 『理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際』市橋則明、文光堂 『図解理学療法検査・測定ガイド』第2版 奈良勲、内山靖、文光堂		
<b>備考</b>	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課す。 授業内課題は授業内にてフィードバックを実施する。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

小関友記：脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。  
森永雄：大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-05			
		●	●	●					
科目名	臨床理学療法評価学演習				単位 認定者	佐々木 広人		試験(実技)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の 方法	
							授業時間数		60 時間
				授業形態	演習	授業回数	30 回		
授業の概要	理学療法評価は治療と表裏一体の関係を持ち、得られた評価結果から論理的な分析・解釈・判断に不可欠な根拠や判断基準となる。臨床理学療法評価学演習では、理学療法における臨床場面で必要な全般的な理学療法評価に関する知識、技術を修得する。また、各疾患に必要な評価項目を列挙し、的確な検査・測定から理学療法評価、治療プログラム立案という理学療法評価の流れについて学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評価とは何か、臨床思考過程の基本的な評価の流れが理解できるようになる。</li> <li>2. 各検査測定項目の意義を理解し、基本的な評価が実施できるようになる。</li> <li>3. 各疾患のリスクについて理解し、症例を想定した評価が部分的に実施できる。</li> <li>4. 基本的な記録と報告ができるようになる。</li> </ol>								
学修者への期待等	各検査測定の方法について十分に復習したうえで授業に臨んでください。動きやすい服装で参加してください。各自実技を動画で撮影する場合がありますので、携帯・タブレット等の動画撮影可能な機器を持参して下さい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	評価の意義、臨床思考過程				評価の意義について、考えてみよう。(概ね30分程度)			佐々木 広人	
2	運動器疾患に対するリスク管理① 骨折に伴う合併症				指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。(概ね60分程度)			佐々木 広人 小松 佳路	
3	運動器疾患に対するリスク管理② そのほかの合併							佐々木 広人 小松 佳路	
4	療法士面接 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
5	関節可動域測定 一上肢一 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
6	関節可動域測定 一下肢一 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
7	形態測定 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
8	筋力測定 一上肢一 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
9	筋力測定 一下肢一 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
10	整形外科疾患別検査 実技							佐々木 広人 小松 佳路	
11	整形外科疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討(一連の評価)							総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。(概ね60分程度)	
12	整形外科疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討(まとめ)							佐々木 広人 小松 佳路	
13	神経障害に対するリスク管理① 急変のリスク				指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。(概ね60分程度)			小関 友記 坂上 尚穂	
14	神経障害に対するリスク管理② リハ開始・中止基準							小関 友記 坂上 尚穂	
15	感覚検査 実技							小関 友記 坂上 尚穂	

回	授業計画	準備学修	担当
16	反射検査（腱反射・病的反射） 実技	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。（概ね60分程度）	小関 友記 坂上 尚穂
17	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 実技		小関 友記 坂上 尚穂
18	運動失調検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
19	バランス（座位）検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
20	バランス（立位）検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
21	脳血管疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（一連の評価）	総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。（概ね60分程度）	小関 友記 坂上 尚穂
22	脳血管疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（まとめ）		小関 友記 坂上 尚穂
23	内部障害に対するリスク管理① 循環器を中心に	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。（概ね60分程度）	伊藤 大亮 荒牧 隼浩
24	内部障害に対するリスク管理② 呼吸器を中心に		伊藤 大亮 荒牧 隼浩
25	脈拍と血圧の測定① 基本的な計測方法 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
26	脈拍と血圧の測定② 計測実践 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
27	標準予防策（スタンダードプレコーション） 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
28	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
29	内部障害に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（一連の評価）	総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。（概ね60分程度）	伊藤 大亮 荒牧 隼浩
30	内部障害に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（まとめ）		伊藤 大亮 荒牧 隼浩
教科書	『PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編』第2版 才藤栄一監修、金原出版		
参考文献	『リハビリテーションリスク管理ハンドブック』改訂第2版 亀田メディカルセンター監修、MEDICAL VIEW		
備考	A B別2クラス 検査器具（打腱器、ストップウォッチ、メジャー）は各自準備しておくこと。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

佐々木広人：総合病院、訪問リハビリにて長年の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-05			
		●	●	●					
科目名	骨関節障害理学療法学				単位 認定者	佐々木 広人		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の 方法	
					授業形態		講義		授業時間数
				授業回数		30 回			
授業の概要	骨関節障害理学療法学では、運動器疾患における運動療法の目的や運動の種類とともに、関節可動域練習、筋力増強運動等の基本的な運動療法について学修する。さらに、さまざまな運動器疾患の病態、画像所見の把握、リスク管理の把握、理学療法評価、理学療法プログラムについて学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨関節障害の概念、治療について説明することができる。</li> <li>骨関節障害の特徴と病態を説明することができる。</li> <li>骨関節障害の一般的理学療法評価項目を説明することができる。</li> <li>骨関節障害の一般的理学療法プログラムを説明することができる。</li> <li>骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。</li> <li>各疾患の病態的特徴と理学療法評価および理学療法プログラムの関係性を説明することができる。</li> </ul>								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学、運動学の復習を行い授業に臨む。</li> <li>臨床場面を想定した、症例を基盤とした課題演習を行うため、実際の患者さんに対する心構えで臨む。</li> <li>臨床実習に向けての確認と実践的臨床対応を実技を通して深めていくもので、積極的参加を求める。</li> <li>各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。</li> <li>各授業内容を理解したうえで、骨関節障害理学療法学演習の学修に活かすこと。</li> <li>授業だけでなく、常日頃から実技の練習を行うことで、実践的な能力の向上を図る努力を怠らない。</li> </ul>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	骨関節障害に対する障害学総論				教科書第1章 (P1~16) を予習・復習すること (概ね60分程度)			原 和彦	
2	大腿骨頸部骨折の評価				教科書第14, 15章 (P137~155) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
3	大腿骨頸部骨折の治療				教科書第16, 17章 (P157~176) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
4	下腿骨骨折の評価				教科書第18章 (P177~180) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
5	下腿骨骨折の治療				教科書第18章 (P181~184) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
6	上腕骨骨折に対する評価と治療				教科書第19章 (P187~191) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
7	前腕骨・手部の骨折の評価と治療				教科書第19章 (P191~194) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
8	変形性膝関節症の評価 (保存・手術)				教科書第2, 4章 (P17~24, 37~45) を予習・復習すること (概ね60分程度)			原 和彦	
9	変形性膝関節症の治療 (保存・手術)				教科書第5, 6章 (P57~75) を予習・復習すること (概ね60分程度)			原 和彦	
10	変形性股関節症の評価 (保存・手術)				教科書第7章 (P67~75) を予習・復習すること (概ね60分程度)			原 和彦	
11	変形性股関節症の治療 (保存・手術)				教科書第8章 (P77~85) を予習・復習すること (概ね60分程度)			原 和彦	
12	肩関節疾患の評価				教科書第22章 (P217~225) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
13	肩関節疾患の治療				教科書第23章 (P227~235) を予習・復習すること (概ね60分程度)			佐々木 広人	
14	肘疾患の評価				教科書第21章 (P207~210) を予習・復習すること (概ね30分程度)			小松 佳路	
15	肘疾患の治療				教科書第22章 (P207~216) を予習・復習すること (概ね30分程度)			小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当
16	関節リウマチの評価	教科書第28章 (P277～281) を予習・復習すること (概ね30分程度)	佐々木 広人
17	関節リウマチの治療	教科書第28章 (P281～290) を予習・復習すること (概ね30分程度)	佐々木 広人
18	膝靭帯損傷の評価	教科書第29章 (P293～296) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
19	膝靭帯損傷の治療	教科書第29章 (P297～302) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
20	半月板損傷の評価と治療	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60分程度)	小松 佳路
21	足関節内反捻挫の評価	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60分程度)	小松 佳路
22	足関節内反捻挫の治療	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60分程度)	小松 佳路
23	頸部疾患の評価	教科書第25章 (P247～251) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
24	頸部疾患の治療	教科書第25章 (P251～256) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
25	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の評価	教科書第26章 (P257～263) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
26	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の治療	教科書第26章 (P263～266) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
27	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症のADL	教科書第27章 (P267～276) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
28	症例検討 (上肢疾患)	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各30分程度)	佐々木 広人
29	症例検討 (下肢疾患)		佐々木 広人
30	症例検討 (脊柱疾患)		佐々木 広人
<b>教科書</b>	『運動器障害理学療法学テキスト』細田多穂編、南江堂		
<b>参考文献</b>	『整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 改訂第2版』整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 『整形外科運動療法ナビゲーション下肢 改訂第2版』整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 『標準整形外科学 第13版』中村利孝他編、医学書院 『運動器疾患の病態と理学療法』奈良 勲 監、森山 英樹、木藤 伸宏 編、医歯薬出版		
<b>備考</b>	A B別2クラス		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

原和彦：一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的な理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。  
佐々木広人：整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。  
小松佳路：複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-06				
		●	●	●						
科目名	骨関節障害理学療法学演習				単位 認定者	佐々木 広人		試験(実技)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	50 %
							授業時間数		60 時間	
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	骨関節障害理学療法学演習では、さまざまな運動器疾患における病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから骨関節障害の理学療法評価過程を理解したうえで、治療プログラムを立案し、治療技術を習得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療の実施を行い、各疾患における理学療法の過程について理解できることを目的とする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法を実施することができる。</li> <li>骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法評価を実施することができる。</li> <li>骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法プログラムを立案し、実施することができる。</li> <li>骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで対するリスク管理ができる。</li> <li>実践的に用いられる理学療法技術、臨床推論をもとに理解を深めることができる。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床場面を想定した、症例を基盤とした課題演習を行うため、実際の患者さんに対する心構えで臨む。</li> <li>臨床実習に向けての確認と実践的臨床対応を演習・実技を通して深めていくもので、積極的参加を求める。</li> <li>各授業に臨むにあたり、事前学修を必ず行うこと。</li> <li>授業だけでなく、平日頃から症例検討を行い、実践的な能力の向上を図る努力を怠らない。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	骨関節障害に対する障害学総論				教科書第1章(P1~16)を予習・復習すること(概ね60分程度)				原 和彦	
2	大腿骨頸部骨折の評価				教科書第14,15章(P137~155)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
3	大腿骨頸部骨折の治療				教科書第16,17章(P157~176)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
4	下腿骨骨折の評価				教科書第18章(P177~180)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
5	下腿骨骨折の治療				教科書第18章(P181~184)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
6	上腕骨骨折に対する評価と治療				教科書第19章(P187~191)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
7	前腕骨・手部の骨折の評価と治療				教科書第19章(P191~194)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
8	変形性股関節症の評価(保存・手術)				教科書第2,4章(P17~24,37~45)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
9	変形性股関節症の治療(保存・手術)				教科書第5,6章(P57~75)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
10	変形性膝関節症の評価(保存・手術)				教科書第7章(P67~75)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
11	変形性膝関節症の治療(保存・手術)				教科書第8章(P77~85)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人 小松 佳路	
12	肩関節疾患の評価				教科書第22章(P217~225)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人	
13	肩関節疾患の治療				教科書第23章(P227~235)を予習・復習すること(概ね60分程度)				佐々木 広人	
14	肘疾患の評価				教科書第21章(P207~210)を予習・復習すること(概ね30分程度)				小松 佳路	
15	肘疾患の治療				教科書第22章(P207~216)を予習・復習すること(概ね30分程度)				小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当
16	関節リウマチの評価	教科書第28章 (P277～281) を予習・復習すること (概ね30分程度)	佐々木 広人
17	関節リウマチの治療	教科書第28章 (P281～290) を予習・復習すること (概ね30分程度)	佐々木 広人
18	膝靭帯損傷の評価	教科書第29章 (P293～296) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
19	膝靭帯損傷の治療	教科書第29章 (P297～302) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
20	半月板損傷の評価と治療	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60程度)	小松 佳路
21	足関節内反捻挫の評価	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60程度)	小松 佳路
22	足関節内反捻挫の治療	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各60程度)	小松 佳路
23	頸部疾患の評価	教科書第25章 (P247～251) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
24	頸部疾患の治療	教科書第25章 (P251～256) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
25	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の評価	教科書第26章 (P257～263) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
26	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の治療	教科書第26章 (P263～266) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
27	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症のADL	教科書第27章 (P267～276) を予習・復習すること (概ね30分程度)	小松 佳路
28	症例検討 (上肢疾患)	LMSに掲載した資料を確認する。 (予習・復習時間概ね各30程度)	佐々木 広人
29	症例検討 (下肢疾患)		佐々木 広人
30	症例検討 (脊柱疾患)		佐々木 広人
教科書	『運動器障害理学療法学テキスト』細田多徳編、南江堂* *骨関節障害理学療法学と同じ教科書を使用する		
参考文献	『整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 改訂第2版』整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 『整形外科運動療法ナビゲーション下肢 改訂第2版』 整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 『標準整形外科学 第13版』中村利孝他編、医学書院 『運動器疾患の病態と理学療法』奈良 勲 監、森山 英樹、木藤 伸宏 編、医歯薬出版		
備考	A B別2クラス 実技演習がしっかりと行える身だしなみ、服装で参加すること。また角度計、メジャー等、必要な物品の準備をして下さい。 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は各疾患講義担当教員から講義内で出題され、講義終了後1週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点后希望者にはフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

原和彦：一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的な理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。  
佐々木広人：整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。  
小松佳路：複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-07				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法学				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	40 %
					授業形態		講義		授業回数	60 時間
							30 回			
授業の概要	中枢神経障害は多くの機能形態障害が重複した障害像を呈し、全体的な障害像をイメージすることが難しい。神経障害理学療法学では、主として脳卒中の障害像を学び、脳卒中に対する理学療法の考え方と、具体的なアプローチについて学修する。はじめに、脳卒中の病態とリスク管理、脳画像所見、理学療法評価、理学療法プログラム、動作分析やADL評価について理解し、学修する。次に、脳卒中の急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法について学修する。また、頭部外傷や高次脳機能障害に対する理学療法についても学修する。									
到達目標	神経障害の理学療法に関する基礎医学、理学療法評価および基本的治療について学修する。 1. 神経系の構造について理解できるようになる。 2. 脳卒中の病態や障害を理解できるようになる。 3. 急性期・回復期・生活期などそれぞれの時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 4. 高次脳機能障害および頭部外傷についても障害像および症状に合わせた理学療法を理解できるようになる。									
学修者への期待等	神経障害のある患者さんを理学療法治療するために必要な講義です。講義内容を理解することで、神経障害に関する基礎知識、理学療法評価、治療プログラムの立案や治療プログラムの実施ができるよう学修してください。教科書をよく読み、予習復習を心掛けてください。講義の内容をふまえた小テストや症例検討もありますので、準備学修をお願いします。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	神経障害理学療法学総論				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください(30分)。			網本 和		
2	中枢神経系の構造のための基礎知識							網本 和		
3	中枢神経系の機能のための基礎知識							網本 和		
4	脳損傷とその回復メカニズム、予後予測							網本 和		
5	脳血管障害の臨床評価・嚥下障害							網本 和		
6	脳血管障害の病態				教科書①80～93ページを参考に、予習資料を実施してください。また、次回の講義にて小テストを実施します(60分)			小関 友記		
7	脳血管障害におけるリスク管理と合併症							小関 友記		
8	脳血管障害におけるリハビリテーション(急性期・回復期・生活期)の流れ				教科書76～79ページを参考に予習資料を実施してください。また、次回の講義にて小テストを実施します。(60分)			小関 友記		
9	脳血管障害の障害像(機能障害・活動制限)				教科書98～152ページを参考に、予習資料を実施してください。また講義内にて小テストを実施します(60分)			小関 友記		
10	脳血管障害の障害構造について				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください(30分)。			森永 雄		
11	脳血管障害に頻用される理学療法評価							森永 雄		
12	脳血管障害に対する急性期理学療法							森永 雄		
13	脳血管障害に対する急性期理学療法の実際							森永 雄		
14	脳血管障害に対する回復期理学療法(1):歩行障害に関する神経生理・バイオメカニクス				教科書200～210ページを参考に予習資料を実施してください。			小関 友記		
15	脳血管障害に対する回復期理学療法(2):歩行障害の評価・治療				教科書211～219ページを参考に予習資料を実施してください。また次回の講義にて小テストを実施します(60分)			小関 友記		

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳血管障害に対する回復期理学療法（3）：ADL障害へのアプローチ	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください。また次回の講義にて小テストを実施します（60分）。	小関 友記
17	脳血管障害に対する生活期理学療法	教科書291～305ページを参考に予習資料を実施してください。また次回の講義にて小テストを実施します（60分）	小関 友記
18	課題指向型アプローチについて（講義）	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください。また講義内にて小テストを実施します（60分）。	小関 友記
19	課題指向型アプローチについて（実技・発表）		小関 友記
20	頭部外傷に対する理学療法：病態と評価	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	大和田 宏美
21	頭部外傷に対する理学療法の実際		大和田 宏美
22	高次脳神経障害学総論		網本 和
23	神経解剖学との関連、診断学の進歩		網本 和
24	左半球症状の理解（失語症）		網本 和
25	失行症のメカニズムとアプローチ 運動の高次神経機能障害		網本 和
26	半側空間無視のメカニズム		網本 和
27	半側空間無視への治療アプローチ		網本 和
28	Pusher現象のメカニズム		網本 和
29	Pusher現象のアプローチ		網本 和
30	その他の高次脳機能障害 症例検討・グループワーク	網本 和	
<b>教科書</b>	①『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』森岡 周, 阿部 浩明 編、奈良 勲 監修、医学書院 ②『病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経』改訂第2版 医療情報科学研究所、メディックメディア		
<b>参考文献</b>	『脳卒中理学療法の理論と技術』改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 『神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる』手塚純一・増田司著、医学書院 『PT・OTのための高次脳機能障害ABC』網本 和編集、文光堂 『高次脳機能障害学』第2版 石合 純夫 著 医歯薬出版 『脳卒中機能評価・予後予測マニュアル』道免 和久 編集、医学書院 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』潮見泰蔵編集、文光堂 『理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I』鈴木俊明編集 MEDICALVIEW		
<b>備考</b>	1回～19回：AB別2クラス 20～30回：AB合同授業 前期中に1-17回までの内容に関し、小テストを実施する。希望者には担当教員より後日フィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

小関友記：脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。  
大和田宏美：脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。  
森永雄：大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RP-2-FLP-08

科目名	神経障害理学療法学演習				単位 認定者	小関 友記		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			

**授業の概要**  
神経障害理学療法学演習では、脳卒中中の障害像を理解し、脳卒中中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中中の理学療法評価過程を理解したうえで、治療プログラムを立案し、治療技術を実践する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療の実施を行い、脳卒中中の理学療法について理解できることを目的とする。

**到達目標**  
本講義においては、中枢神経に関する解剖学、生理学、運動学と神経系理学療法学で学んだ知識を基礎に、どのように臨床でその知識が用いられ、神経系理学療法治療技術が成立しているのかを学修する。そのためには、以下の具体的目標が到達されることが求められる。  
1. 神経系理学療法を実施するために必要な脳画像所見を理解できる。  
2. 神経障害患者の姿勢・動作の分析ができるようになる。  
3. 神経障害患者に対する理学療法評価および理学療法を立案することができる。  
4. 神経障害患者の症例検討を通じて、統合と解釈ができるようになる。

**学修者への期待等**  
実技を行う講義があるため、動きやすい格好を心がけてください。  
指定教科書をよく読み、専門用語について理解を深めてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	基礎①：脳画像所見の実際（CT画像）	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	網本 和
2	基礎②：脳画像所見の実際（MRI・MRA画像）		網本 和
3	動作分析①：脳卒中患者の起立・起居動作障害	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	森永 雄
4	動作分析②：脳卒中患者の起立・起居動作評価		森永 雄
5	動作分析③：脳卒中患者の歩行障害		森永 雄
6	動作分析④：脳卒中患者の歩行評価		森永 雄
7	理学療法①：ポジショニング、愛護的関節可動域練習		森永 雄
8	理学療法②：早期離床		森永 雄
9	理学療法③：装具療法		森永 雄
10	理学療法④：装具療法の実際		森永 雄
11	理学療法⑤：基本動作練習（課題指向型トレーニング含む）		森永 雄
12	理学療法⑥：チームアプローチ・脳卒中ユニット		森永 雄
13	理学療法⑦：起居動作に対するハンドリング		森永 雄 小関 友記
14	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング① 神経系理学療法の基礎	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（60分）。	大和田 宏美
15	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング② 神経系障害と理学療法評価		大和田 宏美
16	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング③ 神経系理学療法アプローチ		大和田 宏美

回	授業計画	準備学修	担当	
17	症例①（急性期）理学療法評価の計画	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	森永 雄	
18	症例①（急性期）リサーチ、ディスカッション		森永 雄	
19	症例①（急性期）理学療法治療の立案		森永 雄	
20	症例①（急性期）発表会		森永 雄	
21	症例②（回復期）症例情報の分析		小関 友記	
22	症例②（回復期）理学療法評価の計画		小関 友記	
23	症例②（回復期）理学療法評価の実践（機能）		小関 友記	
24	症例②（回復期）理学療法評価の実践（活動）		小関 友記	
25	症例②（回復期）理学療法治療の計画		小関 友記	
26	症例③（回復期・生活期）理学療法評価の計画		小関 友記 森永 雄	
27	症例③（回復期・生活期）リサーチ、ディスカッション		小関 友記 森永 雄	
28	症例③（回復期・生活期）理学療法治療の立案		小関 友記 森永 雄	
29	症例③（回復期・生活期）発表会		小関 友記 森永 雄	
30	症例③ 理学療法治療の実際		小関 友記 森永 雄	
<b>教科書</b>	『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版』吉尾雅春編集、医学書院 『理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 神経障害理学療法学』諸橋勇、有馬慶美編集、文光堂			
<b>参考文献</b>	『脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション』阿部浩明、大畑光司、MEDICAL VIEW 『脳卒中理学療法の理論と技術』改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 『神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる』手塚純一・増田司著、医学書院 『脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか?』潮見泰蔵編集、文光堂 『理学療法学テキスト 神経障害理学療法学 I』鈴木俊明編集 MEDICALVIEW			
<b>備考</b>	1～2回：AB合同授業 3～30回：AB別2クラス ICT利活用教育（LMSを介して資料提示、課題回収を行う） 授業内課題は、各症例検討における成果物を成績対象とする。後日成果物に対するフィードバックを行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

小関友記：脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。  
大和田宏美：脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。  
森永雄：大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-09				
		●	●	●						
科目名	内部障害理学療法学				単位認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
					授業形態		講義		授業時間数	60 時間
				授業回数			30 回			
授業の概要	内部障害理学療法学では、内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の理学療法やがんのリハビリテーションなどについて学修する。									
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2. 各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3. 各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。									
学修者への期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	内部障害学総論				予習：内部障害領域のリハビリテーションについて調べておくこと。(概ね30分程度)			大和田 宏美		
2	循環器系の解剖学(構造)				教科書にて循環器の解剖・生理学について復習しておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
3	循環器系の生理学(機能)				教科書にて循環器疾患について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
4	運動強度と運動処方(基礎知識)、リスク管理				教科書の心電図の基本的な構造を調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
5	循環器リハビリテーション対象疾患				教科書にて不整脈について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
6	循環器疾患に対する理学療法各論①：心不全に対する病態と理学療法評価				教科書にて心不全の評価について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
7	循環器疾患に対する理学療法各論②：心不全に対する運動療法				教科書にて心不全の運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
8	循環器疾患に対する理学療法各論③：虚血性心疾患に対する病態と理学療法評価				教科書にて虚血性心疾患の評価について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
9	循環器疾患に対する理学療法各論④：虚血性心疾患に対する運動療法				教科書にて虚血性心疾患の運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
10	循環器疾患に対する理学療法各論⑤：弁疾患および大血管疾患に対する理学療法評価と運動療法				教科書にて大動脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
11	循環器疾患に対する理学療法各論⑥：末梢循環障害に対する理学療法評価と運動療法				教科書にて末梢動脈・静脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
12	循環器疾患のまとめ				循環器疾患の理学療法について理解を深めておくこと。(復習：概ね60分程度)			伊藤 大亮		
13	腎臓疾患に対する理学療法① 腎臓の機能と症状				予習：腎臓の生理学について予習すること。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
14	腎臓疾患に対する理学療法② 理学療法の実際				教科書の該当箇所を精読すること。(予習・復習：概ね30分程度)			伊藤 大亮		
15	呼吸器系の解剖学・運動学(構造)				呼吸器系の解剖学・運動学を復習しておくこと。(概ね60分程度)			伊橋 光二		

回	授業計画	準備学修	担当
16	呼吸器系の生理学（機能）・酸素化能・換気障害について	呼吸器系の生理学を復習しておくこと。（概ね60分程度）	伊橋 光二
17	呼吸不全と呼吸器疾患	呼吸器疾患について復習をしておくこと。（概ね30分程度）	伊橋 光二
18	呼吸理学療法のための評価：フィジカルアセスメント	教科書にて血液ガスおよびスパイロメトリーについて調べておくこと。（予習：概ね30分程度）	伊橋 光二
19	呼吸理学療法のための評価：運動機能・ADL・QOL評価	教科書にて呼吸器疾患のADL・QOL評価について調べておくこと。（概ね30分程度）	伊橋 光二
20	呼吸器疾患と理学療法：COPD	教科書にてCOPDの理学療法について調べておくこと。（概ね60分程度）	伊橋 光二
21	呼吸器疾患と理学療法：拘束性障害（間質性肺炎）	教科書にて拘束性障害の理学療法について調べておくこと。（概ね60分程度）	伊橋 光二
22	呼吸管理（人工呼吸）と呼吸理学療法	教科書にて人工呼吸器について調べておくこと。（概ね30分程度）	伊橋 光二
23	呼吸管理（周術期・急性増悪・ICU）と呼吸理学療法	教科書にて周術期の理学療法について調べておくこと。（概ね30分程度）	伊橋 光二
24	神経系疾患（脊髄損傷・神経筋疾患・脳損傷）と呼吸理学療法	教科書にて神経系疾患について調べておくこと。（概ね30分程度）	伊橋 光二
25	呼吸器疾患のまとめ	呼吸器系の理学療法について理解を深めておくこと。（復習：概ね60分程度）	伊橋 光二
26	糖尿病に対する理学療法① 糖代謝の機能	予習：代謝（エネルギー・糖）について予習すること。（概ね60分程度）	坂上 尚穂
27	糖尿病に対する理学療法② 病態と合併症	教科書の該当箇所を精読すること。（予習・復習：概ね30分程度）	坂上 尚穂
28	糖尿病に対する理学療法③ 運動療法の効果		坂上 尚穂
29	糖尿病に対する理学療法④ 足病変に対する理学療法	課題（実施時間概ね60分程度）	坂上 尚穂
30	がんの理学療法について	がんの理学療法について教科書を読み予習すること。（概ね60分程度）	荒牧 隼浩
<b>教科書</b>	循環器・糖尿病等： 『シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト第4版』細田多穂 編、南江堂 呼吸器： 『呼吸リハビリテーションマニュアル—運動療法—第2版』日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本呼吸器学会、日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、照林社		
<b>参考文献</b>	『循環器理学療法の理論と技術』増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 『がんのリハビリテーションガイドライン』日本リハビリテーション医学会、金原出版		
<b>備考</b>	A B 合同授業 前期期間中に2-14回、後期期間中に15-25回までの内容に関して小テストを実施する。 小テスト採点后、希望者には担当教員よりフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

荒牧隼浩：急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-10				
		●	●	●						
科目名	内部障害理学療法学演習				単位 認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の 方法	試験(実技)	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	授業内課題 (レポート)
							授業回数		30 回	
授業の概要	内部障害理学療法学演習では、内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、内部障害の理学療法を実施するためのリスク管理、画像所見、理学療法評価、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を習得する。本講義では、主に、呼吸器理学療法と循環器理学療法における理学療法技術を修得する。									
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを実施できるようになる。 2. 他疾患に合併する場合でも、疾患のリスクを把握し運動療法を実施できるようになる。 3. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントが実施できるようになる。									
学修者への 期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に実技確認テストを実施することがあります。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	心電図①：基本(成立ち、活動電位、他)				教科書にて循環器の解剖生理について復習しておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
2	心電図②：基本(刺激伝導系、誘導、他)				教科書にて刺激伝導系について復習しておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
3	心電図③：基本(電極、記録形式、他)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
4	心電図④：基本(基本波形、他)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
5	心電図⑤：主な異常心電図波形(緊急)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
6	心電図⑥：主な異常心電図波形(経過観察)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
7	心肺運動負荷試験①：基本(運動生理他)				教科書にて嫌気性代謝閾値について、事前にしらべておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
8	心肺運動負荷試験②：基本(呼気ガス分析他)				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
9	心肺運動負荷試験③：演習				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
10	簡易運動耐容能検査①： 6分間歩行テストの実習				教科書にて6分間歩行試験について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
11	簡易運動耐容能検査②： シャトルウォーキングテストの実習				教科書にてシャトルウォーキングテストについて調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
12	呼吸器系のフィジカルアセスメント：視診(講義)				呼吸器系のフィジカルアセスメントについて調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 光二 荒牧 隼浩		
13	呼吸器系のフィジカルアセスメント：視診(実習)				配付資料の「フィジカルアセスメント：視診」の予習復習(概ね30分程度)			伊藤 光二 荒牧 隼浩		
14	呼吸器系のフィジカルアセスメント：触診(講義)				配付資料の「フィジカルアセスメント：触診」の予習復習(概ね30分程度)			伊藤 光二 荒牧 隼浩		
15	呼吸器系のフィジカルアセスメント：触診(実習)				配付資料の「フィジカルアセスメント：触診」の予習復習(概ね30分程度)			伊藤 光二 荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
16	呼吸器系のフィジカルアセスメント：打診（講義）	配付資料の「フィジカルアセスメント：打診」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
17	呼吸器系のフィジカルアセスメント：打診（実習）	配付資料の「フィジカルアセスメント：打診」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
18	呼吸器系のフィジカルアセスメント：聴診（講義）	配付資料の「フィジカルアセスメント：聴診」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
19	呼吸器系のフィジカルアセスメント：聴診（実習）	配付資料の「フィジカルアセスメント：聴診」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
20	呼吸器系のフィジカルアセスメント：まとめ	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて理解を深めておく（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
21	呼吸介助手技（上部胸郭）	配付資料の「用手的介助手技」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
22	呼吸介助手技（下部胸郭・側臥位介助手技）	配付資料の「用手的介助手技」の予習復習（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
23	排痰法	教科書にて排痰法について読んでおくこと（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
24	画像所見の見方(胸部レントゲン)	胸部レントゲンについて調べておくこと（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
25	吸引と口腔ケア①講義	教科書にて気管吸引について読んでおくこと（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
26	吸引と口腔ケア②実習	教科書にて気管吸引について読んでおくこと（概ね30分程度）	伊橋 光二 荒牧 隼浩
27	症例検討：症例を通じたグループワーク：循環器疾患①問題点抽出	教科書にて循環器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 伊藤 大亮
28	症例検討：症例を通じたグループワーク：循環器疾患②治療プログラム立案	教科書にて循環器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 伊藤 大亮
29	症例検討：症例を通じたグループワーク：呼吸器疾患①問題点抽出	教科書にて呼吸器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
30	症例検討：症例を通じたグループワーク：呼吸器疾患②治療プログラム立案	教科書にて呼吸器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
教科書	『シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改定第4版』細田多穂 編、南江堂		
参考文献	『循環器理学療法の理論と技術』増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 『フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環』三浦 稚郁子 編、中山書店 『フィジカルアセスメント徹底ガイド 呼吸』高橋 仁美 編、中山書店		
備考	A B別2クラス 実技中心のためTシャツ、聴診器、バスタオルの用意をしてください。 レポート課題（提出期限含む）は授業内で担当教員から出題し、採点后希望者にはフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

荒牧隼浩：急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-13				
		●	●	●						
科目名	神経筋疾患理学療法学				単位認定者	坂上 尚穂		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	10 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
							授業回数			15 回
授業の概要	神経筋疾患理学療法学では、多岐にわたる障害像を有する神経筋疾患の理学療法について学ぶ。各神経難病の特性をふまえたうえで、それぞれの病態、主要症状などを理解し、予後と経過、各疾患の進行にあわせた理学療法について学修する。また、脊髄損傷の理学療法についても学修する。									
到達目標	神経筋疾患および脊髄損傷の症状の理解を深め、解剖学・生理学・運動学に基づき、症状から起こるADL障害を説明でき、理学療法プログラムに応用できるようになる。									
学修者への期待等	骨関節疾患患者でもパーキンソン病など神経内科領域の疾患を合併している症例が少なくない。進行性の疾患が多いので、理学療法における特徴を踏まえ、あらゆる方法でADLの改善を図れるようになることを望みます。また、脊髄損傷の分野でも同様の学修が必要になります。質問や発言を積極的に期待しています。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	神経筋疾患総論				神経筋疾患について神経内科学をよく読んで理解しておくこと。(概ね30分程度)				網本 和	
2	パーキンソン病の病態と症状				教科書①P309～313 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
3	パーキンソン病の理学療法評価				教科書①P313～319 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
4	パーキンソン病の理学療法の実践 - すくみ足のメカニズムとその対策 (グループワーク)				教科書①P319～324 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
5	脊髄小脳変性症の病態				脊髄小脳変性症について予習しておく(概ね30分程度)				大和田 宏美	
6	脊髄小脳変性症に対する理学療法評価・理学療法の実践				脊髄小脳変性症：リハビリプログラム 教科書①P327～341 (概ね60分程度)				大和田 宏美	
7	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法				筋萎縮性側索硬化症：リハビリプログラム 教科書①P342～356 (概ね60分程度)				大和田 宏美	
8	多発性硬化症の病態と理学療法				多発性硬化症について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
9	重症筋無力症の病態と理学療法				重症筋無力症について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
10	ギランバレー症候群の病態と理学療法				ギランバレー症候群について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
11	多発性筋炎、皮膚筋炎、ニューロパチー、SLE、Charcot-Marie-Tooth病、その他の難病の病態と理学療法				多発性筋炎、皮膚筋炎、ニューロパチーについて予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
12	脊髄損傷の病態とリスク管理				脊髄の解剖生理を確認するとともに、教科書②p1～7、17～104について確認する(60分)。				小関 友記	
13	脊髄損傷の評価				教科書②p9～16を参考に脊髄損傷の評価について予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
14	脊髄損傷の理学療法とADL(完全損傷)				教科書②p105～151を参考に脊髄完全損傷のADLについて予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
15	脊髄損傷の理学療法とADL(不全損傷)				教科書②p151～158を参考に脊髄不全損傷のADLについて予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
教科書	①『標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学』第3版 森岡 周編、医学書院 ②『脊髄損傷リハビリテーションマニュアル』神奈川リハビリテーション病院・脊髄損傷マニュアル編集委員会編 医学書院									
参考文献	『神経障害理学療法学Ⅱ』中山恭秀、他編、メディカルビュー社									
備考	1回～12回：AB合同授業 13回～15回：AB別2クラス 授業後、LMSにて小テスト(確認テスト)を行います。 授業内課題(小テスト)は課題終了後に授業内で解答および解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大和田宏美：脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。  
網本和：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。  
坂上尚穂：神経内科の病院に長年勤務し、多くの対象症例の臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-14			
		●	●	●					
科目名	発達障害理学療法学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	発達障害理学療法学では、発達障害の特徴を理解し、評価の考え方、評価の進め方、原始反射や正常姿勢反応と正常発達との関係について理解を深める。運動発達における感覚系の発達や摂食嚥下機能の発達の重要性、情緒や母子関係について理解し、ADL指導を含めた治療の考え方を学修する。また、脳性麻痺、知的障害、小児の神経・筋疾患、小児の整形外科疾患、重症心身障害児・者の特徴を理解しその治療方法や指導方法について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達障害の特徴を理解できるようになる。</li> <li>発達障害の評価の方法と問題点のとらえ方を理解できるようになる。</li> <li>正常運動発達を理解できるようになる。</li> <li>脳性麻痺、知的障害などの代表的な疾患に対する理学療法について理解できるようになる。</li> </ul>								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達に関して興味を持ち、子どもの発達には、子ども自身のFUNが欠かせない事を理解して欲しい。</li> <li>子どもの発達は、様々な要素が絡みあって発達している事を理解してほしい。そのため、多方面から評価する事の必要性について理解してほしい。</li> </ul>								
回	授業計画				準備学修				
1	発達障害総論				人間発達学の教科書や資料を参考にして、乳幼児の発達について復習をしてくる。(概ね30分程度)				
2	発達障害の評価の考え方と評価表 実技				教科書P15～P34を読んで、具体的な評価の概要をまとめてくる。(概ね30分程度)				
3	姿勢反射について① 原始反射と運動発達の関連 実技				教科書P46～P69、教科書P22図2-3、P23表2-2を読んで原始反射の概要を予習してくる。(概ね30分程度)				
4	姿勢反射について② 正常姿勢反応と運動発達の関連 実技				教科書P46～P69、教科書P22図2-3、P23図2-3を読んで正常姿勢反応の概要を予習してくる。(概ね30分程度)				
5	正常運動発達①0か月～6か月 実技				教科書P3～P14、P35～P45を読んで予習してくる。(概ね30分程度)				
6	正常運動発達②7か月～12か月 実技				教科書P3～P14、P35～P45を読んで予習してくる。				
7	脳性麻痺総論 実技				教科書P73～P88を読んで脳性麻痺についてまとめる。(概ね30分程度)				
8	脳性麻痺の類型別特徴と治療 実技				参考文献『脳性麻痺の類型別運動発達』を参考にし、教科書P91～P161を読んで予習してくる。(概ね30分程度)				
9	重症心身障害児(者)の評価と治療 実技				教科書P209～P223を読んで重症心身障害児(者)について予習してくる。(概ね30分程度)				
10	知的障害児(者)の評価と治療				教科書P175～P189を読んで知的障害について予習してくる。(概ね30分程度)				
11	小児の整形外科疾患の評価と治療				教科書P162～P174を読んで小児の整形外科疾患について予習してくる。(概ね30分程度)				
12	筋ジストロフィー症の評価と治療				教科書P190～P208を読んで筋ジストロフィー症について予習してくる。(概ね30分程度)				
13	車椅子と座位保持椅子、その他の治療用具についての考え方 実技				運動学の教科書等を参考にして座位姿勢・立位について復習をしてくる。(概ね30分程度)				
14	日常生活活動指導の考え方とその指導方法 実技				参考文献『脳性まひ児の家庭療育』を参考にして、これまでの授業を振り返り、日常生活活動の指導に大切な視点をまとめてくる。(概ね30分程度)				
15	摂食機能の発達とその障害 実技				参考文献の『食べる機能の障害その考え方とリハビリテーション』を参考にして摂食機能の発達について調べてくる。(概ね30分程度)				
教科書	『シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト』最新版 細田多穂監修、南江堂								
参考文献	『脳性まひ児の家庭療育』原著第4版 N.R.Finnie編著、医歯薬出版株式会社 『正常発達 脳性まひの治療アイデア』第2版 紀伊克昌監訳、三輪書店 『脳性麻痺の類型別運動発達』B.Bobath他著、医歯薬出版株式会社 『小児から高齢者までの姿勢保持』第2版 日本リハビリテーション工学協会編集、医学書院 『食べる機能の障害その考え方とリハビリテーション』金子芳洋編、医歯薬出版								
備考	A B別2クラス								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

発達障害理学療法に関する理学療法に30年以上従事しておりInternational Cartification of Bobath Concept Therapistの資格を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-11			
		●		●					
科目名	義肢装具学				単位認定者	鈴木 裕治		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	義肢装具学では、身体各部位ごとの代表的義肢・装具の名称及び機能（目的）を理解し、各疾患と機能・構造障害との関連性を理解することにより、疾患や障害に適した義肢・装具を選択し、また義肢・装具のチェックアウトが行えることを目的とする。また、義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び、義肢を利用する切断患者のリハビリテーションや装具を使ったリハビリテーションについても学修する。								
到達目標	①装具の種類、パーツの名称を言うことができる。 ②装具の機能（目的）を理解し、各疾患と機能構造障害との関連性が説明できるようになる。 ③義足の種類、ソケット・足部・各種パーツの名称が言えるようになる。 ④義足の機能（目的）を理解し、異常歩行の種類が説明できるようになる。								
学修者への期待等	授業の予習・復習を十分に行うこと。 解剖学、運動学についての復習、また疾患の知識についても予習・復習を行うこと。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	車椅子と歩行補助用具				教科書の該当箇所（義肢装具の概念と分類、義肢学総論）を予習復習（概ね30分程度）			鈴木 裕治 原 和彦	
2	装具総論				教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した資料を読み、わからない言葉を調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦	
3	下肢装具Ⅰ 長下肢装具のパーツとチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦	
4	下肢装具Ⅱ 短下肢装具のパーツとチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦	
5	靴型装具							鈴木 裕治 原 和彦	
6	上肢装具							鈴木 裕治 原 和彦	
7	体幹装具							鈴木 裕治 原 和彦	
8	切断の病態と後療法							鈴木 裕治 原 和彦	
9	義足総論							鈴木 裕治 原 和彦	
10	大腿義足の種類とチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦	
11	義足の種類とチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦	
12	義足のパーツと機能							鈴木 裕治 原 和彦	
13	義足の異常歩行							鈴木 裕治 原 和彦	
14	義足の適合判定（PBL）							鈴木 裕治 原 和彦	
15	義肢装具のまとめ							今までの授業内容の復習を行っておくこと（60分）	
教科書	『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版』高田治実 監修、豊田輝 石垣栄司 編集、羊土社								
参考文献	『切断と義肢 第2版』澤村 誠志 著、医歯薬出版 『義肢装具のチェックポイント 第9版』日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会 監修、医学書院 『Q&Aフローチャートによる 下肢切断の理学療法 第4版』細田多穂 監修、原和彦 著、医歯薬出版								
備考	A B別2クラス								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

原和彦：一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法に関する長年の臨床経験と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。  
鈴木裕治：当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加も行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-12				
		●	●	●						
科目名	義肢装具学演習				単位認定者	鈴木 裕治		試験 (口頭試問)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	義肢装具学演習では、義肢装具の適合判定及び装具療法、切断端管理法について実践的な知識を習得する。また、切断患者の断端管理や評価方法および理学療法の実践について理解する。									
到達目標	①装具の機能(目的)を理解し、チェックアウトができるようになる。 ②各疾患と機能構造障害との関連性をふまえて装具の選択と調整による変化が説明できる。 ③義足の機能(目的)を理解し、チェックアウトができるようになる。 ④義足・身体の問題と異常歩行との関連性が説明できる。 ⑤義肢・装具学における国家試験問題を解くことができる。									
学修者への期待等	義肢装具学の授業内容を含め予習・復習を十分に行うこと。 解剖学、運動学、疾患の知識についても復習を十分に行うこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	車椅子と歩行補助用具の演習				教科書の該当箇所(義肢装具の概念と分類、義肢学総論)を予習復習(概ね30分程度)			鈴木 裕治 原 和彦		
2	装具の種類と名称(AL)				教科書の該当箇所を予習(15分)LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく(20分)			鈴木 裕治 原 和彦		
3	下肢装具の演習Ⅰ: 下肢装具の体験				教科書の該当箇所を予習(15分)LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく(20分)			鈴木 裕治 原 和彦		
4	下肢装具の演習Ⅱ: 下肢装具の歩行分析				歩行分析をレポートとしてまとめる(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
5	下肢装具の演習Ⅲ: 下肢装具のチェックアウト				下肢装具のチェックアウト・調整についてレポートとしてまとめる(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
6	上肢装具のチェックアウトと症例検討(PBL)				①上肢装具の復習 ②上肢装具のチェックアウトをまとめる(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
7	装具の適応のための評価(実技)				ランドマークの触診、形態測定の復習(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
8	断端ケア演習				ソフトドレッシングの方法の確認(20分)			鈴木 裕治 原 和彦		
9	義足の種類と名称(AL)				教科書の該当箇所を予習(15分)LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく(20分)			鈴木 裕治 原 和彦		
10	義足の演習Ⅰ: 義足の採型				教科書の該当箇所を予習(15分)LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく(20分)			鈴木 裕治 原 和彦		
11	義足の演習Ⅱ: 切断の評価				ランドマークの触診、形態測定の復習(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
12	義足の演習Ⅲ: 切断の理学療法				運動療法、動作練習の復習(30分)			鈴木 裕治 原 和彦		
13	義足異常歩行の種類と原因(AL)				①義足の異常歩行のICT資料を確認(30分) ②各異常歩行の原因をまとめる(30分)			鈴木 裕治 原 和彦		
14	義足の調整と異常歩行の関係(PBL)				異常歩行と義足の調整についてPPにまとめる(40分)			鈴木 裕治 原 和彦		
15	口頭試問				全体を通し復習しておくこと(60分)			鈴木 裕治 原 和彦		
教科書	『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 第2版』高田治実 監修、豊田輝 石垣栄司 編集、羊土社									
参考文献	『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版—基本編・実践編—』有馬慶美、松本直人 編、文光堂 『理学療法ALT 骨関節障害理学療法学』対馬栄輝、有馬慶美 編、文光堂 『筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版』有馬慶美、日高正己 監訳									
備考	A B別2クラス 授業内課題: 課題レポートを作成し期限までに提出すること。課題はその都度、提示予定。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

原和彦: 一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法に関する長年の臨床経験と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。  
鈴木裕治: 当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加も行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-15			
		●	●	●					
科目名	理学療法学特論				単位 認定者	坂上 尚穂		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	理学療法学特論では、卒後の理学療法活動の基礎となる専門的な治療・管理技術の概念や方法および実践について学修する。また、臨床場面で必要とされる新たな知見を提示し、理学療法の可能性について探求する。								
到達目標	それぞれの治療技術に関する理論や実践の概要を修得し、その目的や適応を説明することができる。それぞれの治療技術の初歩的な段階について治療に導入し、実践できる。								
学修者への期待等	リハビリテーションには先人の知恵・経験により発展してきた多くの技術体系が存在します。本講義においては、その中でも「認知神経リハビリテーション」「バランス障害の評価」「義肢装具・杖・移乗の臨床」「スポーツ理学療法」などについて学び、臨床場面における評価や治療への応用や、生涯学習力を養うことを目的とします。未知の領域に対する好奇心と克己心を持って、学修に臨んでください。また、実技を含む授業のため、動きやすい服装で参加してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	固有受容性神経筋促通法（PNF）の背景				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
2	固有受容性神経筋促通法（PNF） 上肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
3	固有受容性神経筋促通法（PNF） 下肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
4	認知神経リハビリテーションについて（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
5	認知神経リハビリテーションについて（治療応用）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記	
6	バランス障害への評価と治療アプローチ（講義）				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
7	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）座位を中心に				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
8	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）立位・歩行を中心に				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和	
9	スポーツ理学療法（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
10	スポーツ理学療法（スポーツ外傷・障害の発生、再発予防）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
11	アスレチックリハビリテーションの実際				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね30分）			佐々木 広人	
12	（仮）世界のスポーツ理学療法（講義）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			見供 翔	
13	（仮）世界のスポーツ理学療法（実践）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			見供 翔	
14	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（講義）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂	
15	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（実践）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂	
教科書	LMSオリジナル資料								
参考文献									
備考	AB別2クラス（1～11回・14・15回）、AB合同授業（12回・13回） 授業内課題は提出後、フィードバックを行う。								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

坂上尚穂：本教科担当教員は総合病院などで長年勤務し、豊富な臨床経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位 認定者	大和田 宏美		評価の 方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	4 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	180 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	臨床実習Ⅱ（評価実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の習得を図る。									
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 理学療法の利用者に対して、基本的な理学療法評価（検査・測定）を体験し実践できる。 4) その検査・測定結果を解釈することができる。 5) 検査・測定結果をもとに、問題点の抽出、治療プログラムの立案および目標の設定ができるようになる。									
学修者への 期待等	臨床実習では、これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設におけるルールに従い、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること									
授業計画					準備学修					
1. 臨床実習期間 学外実習：令和7年1月27日（月）～ 2月14日（金） 学内実習：令和7年1月下旬と2月下旬  2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習施設で実施の診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 6) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト  3. 臨床実習Ⅱの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。 なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。  実習課題： デイリーノート、ケースノート、症例報告会、 実習報告書、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト  実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身につけてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身につけてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。					
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』豊田輝 編 羊土社 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1年次購入済み									
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-01				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	地域理学療法は、地域リハビリテーション活動体系の中の、地域を基盤として行われる理学療法士による専門的援助である。地域理学療法学では、地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識や方法について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICFの個人因子・環境因子・参加が個人の地域生活に影響していることを理解する。</li> <li>・ 介護保険法や障害者総合支援法における理学療法士の役割を理解する。</li> <li>・ 他職種との連携・協働の重要性を理解する。</li> <li>・ 地域理学療法の概要を理解する。</li> </ul>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援の対象者を生活者として捉え、障害の有無にかかわらず地域で豊かに生活する事の意義を考えてください。</li> <li>・ 地域で暮らすすべての人が社会資源の一つです。将来、一人の住民として理学療法士として、地域にどのように貢献できるか考えてください。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域理学療法総論1 地域理学療法の概念				教科書のP2～P13を読んで、地域理学療法について自分の考えをまとめてくる。(概ね30分程度)			金谷 さとみ		
2	地域理学療法総論2 地域リハビリテーションと地域理学療法 生活者としての対象者				教科書P2～P13、P20～P23を読んでまとめてくる。(概ね30分程度)			金谷 さとみ		
3	地域理学療法の関連法規Ⅰ(介護保険法)				教科書P20～P27、P48～P62を読んでまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
4	地域理学療法の関連法規Ⅱ(障害者総合支援法)				教科書P28～P35を読んで予習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
5	障害者総合支援法における理学療法士の役割				第4回の授業を復習し、理学療法士の役割についてまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
6	地域における社会資源 他職種連携・協働				教科書P36を参考にして、具体的な社会資源を調べ、他職種連携についてまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
7	地域包括ケアシステムについて1 症例検討 グループワーク				地域ケアシステムについて調べてくる。ICFについて復習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
8	地域包括ケアシステムについて2 症例検討 グループワーク【授業内課題1】				地域ケアシステムについて調べてくる。ICFについて復習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
9	地域理学療法の実践：地域における障害児者支援				第4回5回の授業の復習をしてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
10	地域において求められる理学療法像 グループワーク【授業内課題2】				地域で求められている理学療法士像について自分の考えをまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
11	地域理学療法の実践：訪問系理学療法① 訪問系理学療法の役割や制度について				訪問系の理学療法士が求められる役割について調べる(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
12	地域理学療法の実践：訪問系理学療法② 訪問系理学療法での評価・治療について				訪問系理学療法における評価について調べる(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
13	予防分野における地域理学療法：サルコペニア・フレイル				サイコペニア・フレイルについて調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
14	予防分野における地域理学療法：転倒予防				高齢者の転倒について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
15	予防分野における地域理学療法：認知症予防				認知症について調べてまとめる。(概ね30分程度)			金谷 さとみ		
教科書	『ビジュアルレクチャー地域理学療法学第3版』浅川育生編、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『標準理学療法学専門分野地域理学療法学第4版』牧田光代他編集、医学書院 『PTOTビジュアルテキスト地域リハビリテーション学第2版』重森健太編集、羊土社 『ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル』河野真編、羊土社									
備考	A B 合同授業 授業内課題(レポート)は、採点后返却します									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大橋孝子：障害領域の相談支援に20年以上従事しており、車椅子・座位保持椅子等の作成に多数かかわっており、在宅障がい者の支援の経験が豊富である。

リハビリテーション学科  
理学療法学専攻  
3年生

【2022(令和4)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土						
4月	31	1	オリテ①	2	①	3	入学式	4	①	5	①	6	
	7	8	健康診断②	9	②	10	①	11	②	12	②	13	
	14	15	③	16	③	17	②	18	③	19	③	20	
	21	22	④	23	④	24	③	25	④	26	④	27	
	28	29	昭和の日	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日
5月	5	こどもの日	6	振替休日	7		8		9		10		11
	12		13		14		15		16		17		18
	19		20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25
	26		27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	臨床実習Ⅲ	1
6月	2		3	臨床実習Ⅲ	4	臨床実習Ⅲ	5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	臨床実習Ⅲ	8
	9		10	臨床実習Ⅲ	11	臨床実習Ⅲ	12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	臨床実習Ⅲ	15
	16		17	臨床実習Ⅲ	18	臨床実習Ⅲ	19	臨床実習Ⅲ	20	臨床実習Ⅲ	21	臨床実習Ⅲ	22
	23		24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	臨床実習Ⅲ	28	臨床実習Ⅲ	29
7月	30		1		2		3		4		5		6
	7		8		9		10		11		12		13
	14		15	海の日	16	地域実習	17	地域実習	18	地域実習	19	地域実習	20
	21		22	地域実習	23	地域実習	24	地域実習	25	地域実習	26	地域実習	27
	28		29		30		31	⑤	1	⑤	2	⑤	3
8月	4		5	⑤	6	⑤	7		8		9		10
	11	山の日	12	振替休日	13		14		15		16		17
	18		19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21	臨床実習Ⅳ	22	臨床実習Ⅳ	23	臨床実習Ⅳ	24
	25		26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	31
9月	1		2	臨床実習Ⅳ	3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	臨床実習Ⅳ	7
	8		9	臨床実習Ⅳ	10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	臨床実習Ⅳ	14
	15		16	敬老の日	17	臨床実習Ⅳ	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21
	22	秋分の日	23	振替休日	24	臨床実習Ⅳ	25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28
	29		30		1		2		3		4		5

2024(令和6)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14 スポーツの日	15 地域実習	16 地域実習	17 地域実習	18 地域実習	19
	20	21 地域実習	22 地域実習	23 地域実習	24 地域実習	25 地域実習	26
	27	28	29	30 ⑥	31 ⑥	1 ⑥	2
11月	3 文化の日	4 振替休日	5 ⑥	6 ⑦	7 ⑦	8 ⑦	9
	10	11 ⑥	12 ⑦	13 ⑧	14 ⑧	15 ⑧	16
	17	18 ⑦	19 ⑧	20 ⑨	21 ⑨	22 ⑨	23 勤労感謝の日
	24	25 ⑧	26 ⑨	27 ⑩	28 ⑩	29 ⑩	30
12月	1	2 定期試験	3 定期試験	4 定期試験	5 定期試験	6 定期試験	7
	8	9 ⑨	10 ⑩	11 ⑪	12 ⑪	13 ⑪	14
	15	16 再試験	17 再試験	18 再試験	19 再試験	20 再試験	21
	22	23 ⑩	24	25	26	27	28
	29	30	31	1 元旦	2	3	4
1月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 成人の日	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
2月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11 建国記念の日	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	1
3月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18 卒業式	19	20 春分の日	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5



学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-BPT-03				
		●		●						
科目名	理学療法研究法				単位認定者	網本 和		授業内課題(発表会)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	試験(筆記)
				授業回数		15 回				
授業の概要	理学療法が科学として体系化され、より成熟したものになるためには、科学的根拠に基づいた理学療法の展開・実践が必要である。 理学療法研究法では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。									
到達目標	1. 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究デザインや、基本的な研究の手順を説明できる。 3. 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 4. 文献抄読を通して論理的思考力を身につけることができる。									
学修者への期待等	日進月歩する医療において、対象者に最適な理学療法を提供するためには、自らの知識技術が最新かつ安全なものであるかについて不断の検証が求められます。 そのためには浩瀚な先行研究の理解と、実践する理学療法効果の検証が必要です。 このような課題を解決するため「研究法」の基礎を修得して臨床に役立てていただきたいと考えています。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	理学療法と研究、研究の意義・目的				「研究法」に関するテキストまたは文献を事前に学修する(概ね60分程度)				網本 和 小松 佳路	
2	根拠に基づく理学療法(EBPT)及び研究テーマの設定 診療ガイドラインの活用、ナラティブに基づく実践								網本 和 小松 佳路	
3	研究デザインの基礎知識								網本 和 小松 佳路	
4	研究論文(文献)検索と論文の読み方								網本 和 小松 佳路	
5	研究計画の立て方と研究倫理								網本 和 小松 佳路	
6	医療統計(妥当性・信頼性、感度・特異度、尤度比)								網本 和 小松 佳路	
7	対象の決め方・データのとり方 統計解析 1) 記述統計学								網本 和 小松 佳路	
8	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学①								網本 和 小松 佳路	
9	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学②								網本 和 小松 佳路	
10	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学③								網本 和 小松 佳路	
11	症例研究								網本 和 小松 佳路	
12	基礎研究の実践例提示と討論				スライド発表の準備をしておくこと (概ね60分程度)				P T 専攻教員	
13	臨床研究の実践例提示と討論								P T 専攻教員	
14	文献発表会と討論								P T 専攻教員	
15	文献発表会と討論								P T 専攻教員	
教科書	指定しない									
参考文献	『理学療法NAVI 臨床の疑問を研究に変える 臨床研究First Stage』網本和・他著、医学書院 『標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法』内山靖編、医学書院									
備考	A B 合同授業 12回～15回の担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路 各グループ担当教員より、グループワークのまとめについてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本和：大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行ってきた。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-2MNP-01				
			●	●	●					
科目名	理学療法管理学				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	15 回			
授業の概要	理学療法管理学では、理学療法士として仕事をするにあたり、対象者のリスクを把握することや危機管理能力が不可欠である。医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、組織運営や理学療法業務のマネジメントに必要な能力が培われるとともに、職業倫理を高めることができるよう学修する。また、臨床だけでなく、理学療法教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般についても学修する。									
到達目標	1) 臨床倫理原則(生命医療倫理等)について学び、医療に従事する者の基本姿勢を理解する。 2) 医療機関等における組織体制、業務管理体制、チーム医療などについて説明できる。 3) 医療の質向上に貢献できるよう、リスクマネジメント、クオリティアシュアランスの知識を身につけ、さらには自身のキャリア形成等の方法論について習得する。									
学修者への期待等	理学療法士が社会の中でどのような場所において何を期待されているかが理解でき、大学での日々の学びがいかに重要かを実感できる。事前にテキストの目次だけでも目を通すこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	臨床倫理原則(理学療法士の倫理やモラルとは)				何らかの資料で医療事故などについて調べる。予習として読む:テキストP46~P50(概ね15分)					
2	ホスピタルガバナンスとは				予習:テキスト第1章 リハビリテーション科における管理とは(概ね15分)					
3	医療機関、福祉施設における組織体制				予習として読む:テキスト第2章 組織化 P8~21(概ね15分)					
4	業務管理(急性期、回復期、在宅など)				予習として読む:テキスト第3章 業務管理前半P22~P37(概ね15分)					
5	部署内、院内活動への貢献				予習として読む:テキスト第3章 業務管理後半P38~P45(概ね15分)					
6	人事労務管理(人事計画と職員管理)				予習として読む:テキスト第4章 人事労務管理前半P50~P66(概ね30分)					
7	人事労務管理(人事考課と面談、個人目標管理)				予習として読む:テキスト第4章 人事労務管理後半P67~P71(概ね15分)					
8	人事労務管理(ストレスチェック、健康管理)				何らかの資料でコミュニケーション手法、アンガーマネジメントについて調べる(概ね30分)					
9	教育システム(様々な人材育成手法)				予習:テキスト第5章 教育システム前半P72~P101(概ね30分)					
10	教育システム(医療専門職の継続教育について)				予習:テキスト第5章 教育システム後半P102~P127(概ね30分)					
11	社会保障制度の中の理学療法				何らかの資料で日本の社会保障制度の概要について予習する。(概ね30分)					
12	リスクマネジメントとクオリティアシュアランス				予習として読む:テキスト第7章 リスクマネジメント P142~163(概ね30分)					
13	チームにおけるコミュニケーション:グループワーク				事前に提示されたグループワーク課題を調べておく。(概ね30分)					
14	チーム強化のために:グループワーク				事前に提示されたグループワーク課題を調べておく。(概ね30分)					
15	経営マネジメントと管理者の資質				何らかの資料で管理者の資質について調べる。(概ね15分)					
教科書	資料配付									
参考文献	『リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック』金谷さとみ、高橋仁美編集 メディカルビュー社									
備考	授業内課題は13回目と14回目のグループワークの成果物とする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-03			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位認定者	大和田 宏美		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	3年	開講時期	通年	単位数		
					授業形態	実習	授業時間数	315 時間	
							授業回数	- 回	
授業の概要	臨床実習Ⅲ（総合実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、対象者の他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、一連の評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。								
到達目標	1) 臨床実習指導者の助言・指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。 2) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 3) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる。								
学修者への期待等	これまで学修した理学療法の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること								
授業計画					準備学修				
1. 臨床実習期間 学外実習：令和6年5月20日(月)～6月28日(金) 学内実習：令和6年5月中旬と6月下旬～7月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践する。 5) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 6) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 7) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学カテスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学カテスト 3. 臨床実習Ⅲの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例)ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学カテスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。				
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』豊田輝 編 羊土社 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』才藤栄一監修 金原出版 * 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次購入済み								
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、臨床リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）								
備考	担当者 理学療法専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位認定者	大和田 宏美		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	7 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	315 時間		
						授業回数	- 回		
授業の概要	臨床実習Ⅳ（総合実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価、治療プログラムの修正までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。臨床実習を通して、臨床現場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持って行動することができるようになる。								
到達目標	1) 臨床実習指導者の指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。								
学修者への期待等	臨床実習では、これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設におけるルールに従い、実習生として責任ある行動をとること ・臨床実習指導者からの指導を積極的に受けること								
授業計画					準備学修				
1. 臨床実習期間 学外実習：令和6年8月19日（月）～9月27日（金） 学内実習：令和6年8月中旬と10月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践し治療プログラム修正を行う。 5) 院内の多職種連携を学修し、理学療法士の役割を理解する。 6) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 7) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 8) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト 3. 臨床実習Ⅳの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例)ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。				
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 『症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト』豊田輝 編 羊土社 * 『PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編』才藤栄一監修 金原出版 * 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次購入済み								
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）								
備考	担当者 理学療法専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-05				
	●	●	●	●	●					
科目名	地域理学療法実習				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	地域理学療法実習では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。									
到達目標	1) 臨床実習指導者の指導のもと、地域理学療法について理解する。 2) 地域での理学療法士の役割と責任および関連専門職の役割について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。									
学修者への期待等	急性期・回復期と一連のリハビリテーションを実施していったその先に、在宅医療や地域でのリハビリテーションがあります。理学療法士が地域に果たす役割や利用者の生活に密着した場面で利用者の状態に合わせた指導や適切な支援ができるようしっかりと学んでください。									
授業計画					準備学修					
1. 実習期間 学外実習期間：① 令和6年7月16日（火）～ 7月26日（金） ② 令和6年10月15日（火）～10月25日（金） ①・②のどちらか期間において4日間実施する。 学内実習（実習オリエンテーション、発表会等）は別日程で実施する。 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、臨床実習指導者の指導のもと、地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解し、適切な理学療法を提供できるようになる。 3) 毎日のデイリーノート（臨床実習記録）とケースノート（利用者に関する記録）を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内での実習セミナーに参加し、実習で学んできたことの成果発表やレポート課題などを学内教員より指導を受けること。 3. 地域理学療法実習の総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目について、臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 ・臨床実習評価 実習態度、デイリーノート、ケースノート、成果発表					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。地域理学療法に関する文献等をしっかりと読んでおいてください。					
教科書	『PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター』相澤純也編集 羊土社 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 * 『ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版』有馬慶美編集 文光堂 『症例動画でわかる理学療法臨床推論』羊土社 * 『臨床実習の手引き』（配付資料） *1・2年次購入済み									
参考文献	地域リハビリテーション領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、伊橋光二、金谷さとみ、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-02				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	森永 雄				
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート①)	40 %
					授業形態				演習	授業時間数
	授業回数	15 回	受講態度	10 %						
授業の概要	地域理学療法学で学修した知識を基に、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。本講義では、事例を通して、相談支援、訪問理学療法・通所サービス、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、地域における理学療法士としての実践力を養う。また、介護予防、認知症予防や転倒予防などの運動および各評価についての理論を学び実践する。									
到達目標	<p>【実践力】 シミュレーションを通して、地域理学療法士の企画力と集団に対する実践力を高める。</p> <p>【人間関係力】 他者の考えや対象者の立場を理解し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図れる。</p> <p>チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけができる。</p> <p>【生涯学習力】 考えを「引き出す」から「創り出す」学習の一步を踏み出すことができる。</p> <p>自助・互助の果たす役割を自覚し、課題解決に向けて能動的な学習行動を図れる。</p> <p>【地域理解力】 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。</p>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技実演では動きやすい格好を心がけ、チーム活動では活発な討論ができるよう整えてください。</li> <li>・現場体験談を傾聴する際は、授業計画テーマの事前学修（予習）に努めてください。</li> <li>・本選発表では、聴講者の興味関心が高まるような創意工夫を期待します。</li> </ul>									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域高齢者の理解と評価・リスクマネジメント 【反転授業、クラス合同】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄 金谷 さとみ		
2	地域理学療法学ガイドラインと住環境、まちづくり 【反転授業、クラス合同】							森永 雄 金谷 さとみ		
3	地域課題の共有と関連企画の検討 ※1…備考参照 【リサーチ、ディスカッション、クラス合同】							森永 雄 金谷 さとみ		
4	学生による健康増進と介護予防教室の計画 【リサーチ、グループワーク、クラス合同】							森永 雄 金谷 さとみ		
5	学生による介護予防教室の実践 【ロールプレイ、グループワーク】							森永 雄 金谷 さとみ		
6	現場体験談1 国際支援（青年海外協力隊） 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね30分程度)			市村 駿介 森永 雄		
7	現場体験談2 地域・小児・理学療法士 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】							小島 賢司 森永 雄 金谷 さとみ		
8	現場体験談3 訪問リハと理学療法士【クラス合同】							荒牧 隼浩 金谷 さとみ		
9	現場体験談4 地域性に基づく理学療法と取り組み 【ICTを活用した双方向型授業、クラス合同】							館石 安由 森永 雄		
10	現場体験談5 地域就労者の労働災害と健康増進 【クラス合同】							坂上 高穂 金谷 さとみ 森永 雄		
11	現場体験談6 地域スポーツ活動の支援【クラス合同】							佐々木 広人 金谷 さとみ 森永 雄		
12	現場体験談7 地域高齢者介護予防・健康増進・災害 【クラス合同】							大和田 宏美 金谷 さとみ		
13	発表準備 【ディスカッション、グループワーク、クラス合同】				発表の準備を行うこと (予習復習あわせて240分程度)			森永 雄 金谷 さとみ		
14	予選発表（校内発表） 【学生によるプレゼンテーション】							森永 雄 金谷 さとみ		
15	本選発表（外部聴衆あり） 【学生によるプレゼンテーション、クラス合同】							森永 雄 金谷 さとみ		
教科書	LMSに掲載された資料確認									
参考文献	LMSに掲載された資料確認									
備考	<p>【特性】 AB合同授業(1-4、6-13回、15回)、AB別2クラス(5回、14回)、体験談における非常勤講師は遠隔講義(Zoom利用)予定、ICT活用教育(LMS、Google formなど)、AL(グループワーク、発表、ディスカッション、ディベートなど)</p> <p>【評価】 「授業内課題(レポート①)」は、3-5回授業内容を対象とし、独自のルーブリックを用いて採点を行う。学生がLMSの科目コース内に指定した提出先Boxに提出する。後日、提出先Boxにあるフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスの機会を設ける。「授業内課題(レポート②)」は、13-15回授業内容を対象とし、上記同様に取り扱う。「受講態度」は、出席数と現場体験談受講後のリフレクション数と質を指標とする。</p> <p>【備考】 ※1…地域課題は、協力の得られた仙台市太白区中央市民センターと同センター企画に参加した地域住民の意見を参考にした。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

森永雄：地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネージャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位認定者	大橋 孝子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	3年				授業時間数		30 時間
				授業形態	演習	授業回数			15 回
授業の概要	包括的なリハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること。(概ね30分)			金谷 さとみ	
2	他職種の専門性を知る[1]看護師				授業の内容をまとめる。(概ね30分)			他学科教員 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
3	他職種の専門性を知る[2]言語聴覚士								
4	他職種の専門性を知る[3]栄養士								
5	他職種の専門性を知る[4]歯科衛生士								
6	連携する際の工夫を考える[1]グループワーク				発表資料の作成準備をする。(毎回概ね30分)			原 和彦 金谷 さとみ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
7	連携する際の工夫を考える[2]発表								
8	他職種の専門性を聴く [1] 障害者総合支援法における連携 ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			及川 かよ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
9	他職種の専門性を聴く [2] ケアマネージメント ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			福地 慎治 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
10	他職種の専門性を聴く [3] 地域包括支援センター ゲストスピーカー				授業内容をまとめる。(概ね30分程度)			東海林 大介 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
11	事例検討 [1] 事例提示				発表資料の作成準備をする。(毎回概ね30分)			原 和彦 金谷 さとみ 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子	
12	事例検討 [2] グループワーク								
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク								
14	事例検討 [4] 発表1								
15	事例検討 [5] 発表2								
教科書	配付資料								
参考文献	『信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく』京極真、中央法規								
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

大橋孝子：障害領域の相談支援に20年以上従事しており、多職種との連携の経験が豊富である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門支持科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める。</li> <li>2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。</li> <li>3. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。</li> <li>4. 専門基礎分野における国家試験の問題を解くことができる。</li> </ol>								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で使用する資料に従って予習すること。</li> <li>2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。</li> <li>3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。</li> <li>4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。</li> </ol>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	運動機能学1：上肢				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)			小松 佳路	
2	運動機能学2：下肢							小松 佳路	
3	運動機能学3：体幹・顔面							小松 佳路	
4	運動機能学4：姿勢・歩行							小松 佳路	
5	解剖生理学1：呼吸器系							荒牧 隼浩	
6	解剖生理学2：循環器系							伊藤 大亮	
7	解剖生理学3：腎臓・泌尿器系							伊藤 大亮	
8	解剖生理学4：消化器系							伊藤 大亮	
9	生理学1：神経、脳、脊髄							鈴木 裕治	
10	生理学2：体性感覚							鈴木 裕治	
11	生理学3：運動、反射							鈴木 裕治	
12	生理学4：特殊感覚、自律神経							鈴木 裕治	
13	生理学5：細胞、内臓							鈴木 裕治	
14	整形外科学1：整形外科一般							小松 佳路	
15	整形外科学2：整形外科骨折							小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	整形外科3：変形性関節症	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	小松 佳路	
17	神経内科学1：神経筋疾患：PD・ALS		大和田 宏美	
18	神経内科学2：神経筋疾患：SCD・MG		大和田 宏美	
19	神経内科学3：神経筋疾患：GBS・MS		大和田 宏美	
20	内科学1：呼吸器疾患		荒牧 隼浩	
21	内科学2：循環器系疾患		伊藤 大亮	
22	内科学3：腎臓・泌尿器・消化器系疾患		伊藤 大亮	
23	病理学1：変性・炎症		鈴木 裕治	
24	病理学2：免疫・感染		鈴木 裕治	
25	人間発達学		大橋 孝子	
26	臨床心理学1：心理療法		小関 友記	
27	臨床心理学2：防衛機制・発達段階		小関 友記	
28	精神医学1：器質性精神障害		須藤 あゆみ	
29	精神医学2：統合失調症		須藤 あゆみ	
30	精神医学3：気分障害		須藤 あゆみ	
<b>教科書</b>	『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版』ヒントレ研究所 編 南江堂 『系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①』坂井 建雄 医学書院* *1年次購入済み			
<b>参考文献</b>	『国試の達人PTシリーズ2023年 運動解剖生理学編 第28版』アイベック 『国試の達人PTシリーズ2024年 臨床医学編 第25版』アイベック 後日指定する			
<b>備考</b>	14～27回：PTAB合同授業 1～13回、28～30回：PT・OT合同授業			

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-02			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門展開科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、理学療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるように学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法専門領域の知識と技術を用いて、理学療法を実践的に展開できるようになる。</li> <li>2. 専門基礎、臨床医学分野に関して知識と技術を整理し、専門分野における臨床応用ができるようになる。</li> <li>3. 専門分野の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。</li> <li>4. 専門分野における国家試験の問題を解くことができる。</li> </ol>								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で使用する資料に従って予習すること。</li> <li>2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。</li> <li>3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。</li> <li>4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしないこと。</li> </ol>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	障害別理学療法総論				事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)			大和田 宏美	
2	理学療法評価学1：関節可動域測定の基礎							佐々木 広人	
3	理学療法評価学2：関節可動域測定の実際（実地問題）							佐々木 広人	
4	理学療法評価学3：MMTの基礎							佐々木 広人	
5	理学療法評価学4：MMTの実際（実地問題）							佐々木 広人	
6	理学療法評価学5：疾患別評価法							佐々木 広人	
7	骨関節障害1：上肢の骨関節障害							小松 佳路	
8	骨関節障害2：下肢の骨関節障害							小松 佳路	
9	骨関節障害3：体幹の骨関節障害							小松 佳路	
10	骨関節障害4：RA・骨折							小松 佳路	
11	中枢神経障害1（脳卒中）：脳画像							大和田 宏美	
12	中枢神経障害2（脳卒中）：片麻痺の理学療法							大和田 宏美	
13	中枢神経障害3（脳卒中）：高次脳機能障害							大和田 宏美	
14	中枢神経障害4（脊髄損傷）							大和田 宏美	
15	中枢神経障害5（神経筋疾患）：PA・SCD・ALS							大和田 宏美	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	中枢神経障害6（神経筋疾患）：MS・GBS・MG	事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。（概ね60分程度）	大和田 宏美	
17	内部障害学1：呼吸器障害の理学療法		荒牧 隼浩	
18	内部障害学2：呼吸器障害の理学療法		荒牧 隼浩	
19	内部障害学3：循環器障害の理学療法		伊藤 大亮	
20	内部障害学4：循環器障害（心電図の基本）		伊藤 大亮	
21	内部障害学5：循環器障害（不整脈）		伊藤 大亮	
22	内部障害学6：代謝障害の理学療法		伊藤 大亮	
23	小児理学療法学1 脳性麻痺 知的障害について		大橋 孝子	
24	小児理学療法学2 筋ジストロフィー症 小児整形外科疾患について		大橋 孝子	
25	義肢装具学1：上肢の装具学		鈴木 裕治	
26	義肢装具学2：下肢の装具学		鈴木 裕治	
27	義肢装具学3：義肢学		鈴木 裕治	
28	物理療法学1：物理療法の基礎		鈴木 裕治	
29	物理療法学2：温熱療法・寒冷療法・電気光線療法		鈴木 裕治	
30	法律・制度・地域理学療法学(介護予防も含む)		大橋 孝子	
<b>教科書</b>	特になし			
<b>参考文献</b>	『国試の達人PTシリーズ2024年 理学療法編 第24版』アイベック 後日指定する			
<b>備考</b>	A B 合同授業			

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--



## リハビリテーション学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務を有する教員一覧
- オフィスアワー

リハビリテーション学科理学療法学専攻のナンバリングの見方

【例】 RP-1-○○○-01

RP	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号（全学共通教養科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

リハビリテーション学科理学療法学専攻：RP

② 科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

特別科目：3

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	BSF	Body Structure & Function
		疾病の成り立ちと回復	D&R	Disease & Recovery
		保健医療福祉とリハビリテーション	H&R	Health & Rehabilitation
	専門展開科目	基礎理学療法学	BPT	Basic PT
		理学療法管理学	MNP	Management of PT
		理学療法評価学	ASP	Assessment of PT
		理学療法治療学	FLP	Fielded PT
		臨床実習	CLP	Clinical Practice
		地域理学療法	CBP	Community Based PT
特別科目		SPS	Special Seminar	

④ 連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

リハビリテーション学科理学療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教養教育分野	科目名称	ナンバリング		
		科目名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		コミュニケーション論	RP-0-HCU-01	
		英語 I	CO-0-HCU-02	
		英語 II	RP-0-HCU-02	
		歴史と文化	CO-0-HCU-03	
		大学生活論	CO-0-HSO-01	
	人間と社会 0 HSO	暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02	
		現代の社会	CO-0-HSO-03	
		心理学概論	RP-0-HSO-01	
		情報処理	CO-0-HSC-01	
		生物学	RP-0-HSC-01	
		物理学	RP-0-HSC-02	
人間と科学 0 HSC	健康スポーツ科学	RP-0-HSC-03		
	専門支持科目 1	解剖学	RP-1-BSF-01	
		解剖学演習	RP-1-BSF-02	
		解剖学実習	RP-1-BSF-03	
		生理学 I	RP-1-BSF-04	
		生理学 II	RP-1-BSF-05	
		生理学実習	RP-1-BSF-06	
		運動学	RP-1-BSF-07	
		運動学演習	RP-1-BSF-10	
		運動学実習	RP-1-BSF-08	
		人間発達学	RP-1-BSF-09	
		疾病の成り立ちと回復 D&R	病理学	RP-1-D&R-01
医学概論			RP-1-D&R-02	
内科学	RP-1-D&R-03			
リハビリテーション栄養学	RP-1-D&R-04			
神経学	RP-1-D&R-05			
臨床医学特論	RP-1-D&R-12			
小児科学	RP-1-D&R-06			
整形外科学総論	RP-1-D&R-07			
整形外科学各論	RP-1-D&R-08			
精神医学総論	RP-1-D&R-09			
老年学	RP-1-D&R-13			
臨床心理学	RP-1-D&R-10			
救急救命医学	RP-1-D&R-11			
保健医療福祉とリハビリテーション H&R	公衆衛生学	RP-1-H&R-03		
	社会福祉概論	RP-1-H&R-02		
	医療関連法規	RP-1-H&R-04		
	リハビリテーション概論	RP-1-H&R-01		
基礎理学療法学 BPT	理学療法学概論	RP-2-BPT-01		
	運動療法基礎理論	RP-2-BPT-02		
	理学療法研究法	RP-2-BPT-03		
	理学療法管理学 MNP	理学療法管理学	RP-2-MNP-01	
		理学療法評価学 ASP	基礎理学療法評価学概論	RP-2-ASP-01
			基礎理学療法評価学実習	RP-2-ASP-02
			骨関節障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-03
			神経障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-04
			臨床理学療法評価学演習	RP-2-ASP-05
		理学療法治療学 FLP	骨関節障害理学療法学	RP-2-FLP-05
			骨関節障害理学療法学演習	RP-2-FLP-06
			神経障害理学療法学	RP-2-FLP-07
神経障害理学療法学演習			RP-2-FLP-08	
内部障害理学療法学			RP-2-FLP-09	
内部障害理学療法学演習			RP-2-FLP-10	
神経筋疾患理学療法学	RP-2-FLP-13			
発達障害理学療法学	RP-2-FLP-14			
物理療法学	RP-2-FLP-02			
物理療法学演習	RP-2-FLP-03			
義肢装具学	RP-2-FLP-11			
義肢装具学演習	RP-2-FLP-12			
日常生活活動学	RP-2-FLP-01			
日常生活活動学演習	RP-2-FLP-04			
理学療法学特論	RP-2-FLP-15			
専門展開科目 2				

	臨床実習 CLP	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RP-2-CLP-01
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	RP-2-CLP-02
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	RP-2-CLP-03
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	RP-2-CLP-04
		地域理学療法実習	RP-2-CLP-05
	地域理学療法 CBP	地域理学療法学	RP-2-CBP-01
		地域理学療法学演習	RP-2-CBP-02
		保健医療福祉連携論	RP-2-CBP-03
	特別科目 3 SPS	専門支持科目特別演習	RP-3-SPS-01
		専門展開科目特別演習	RP-3-SPS-02

教員一覧

	氏名	電話番号	E-mail
1	あみもと かず 網本 和	022-308-2071 (代表)	k_amimoto@seiyogakuin.ac.jp
2	はら かずひこ 原 和彦		k_hara@seiyogakuin.ac.jp
3	いはし こうじ 伊橋 光二		k_ihashi@seiyogakuin.ac.jp
4	かねや さとみ 金谷 さとみ		s_kaneya@seiyogakuin.ac.jp
5	とざと ふさえ 外里 富佐江		f_tozato@seiyogakuin.ac.jp
6	ひらやま かずみ 平山 和美		k_hirayama@seiyogakuin.ac.jp
7	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
8	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
9	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
10	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
11	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
12	こせき ともり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
13	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
14	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
15	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
16	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
17	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
18	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
19	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
20	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
21	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

リハビリテーション学科 理学療法専攻 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名		実務教員		実務の概要	
単位	実務教員	科目名	実務教員	単位	実務の概要
1	森永雄	運動学演習	1	動作分析（分析のための機器利用）に関する長年の臨床経験・研究の経験あり。また、9年間にわたる運動学関連科目（とりわけ身体運動）の教育経験あり、この経験を基に、講義を担当する。	
2	佐直信彦	神経学	2	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験を基に講義を担当する。	
1	荒牧隼浩	臨床医学特論	1	当該教科担当者は急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。	
1	佐々木広人	整形外科各論	1	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。	
1	小松佳路	整形外科各論	1	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。	
1	佐直 信彦	老年学	1	医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験を基に講義を担当する。	
1	高泉 佳苗	リハビリテーション栄養学	1	管理栄養士として病院における栄養管理の実務経験を有する。	
1	伊藤大亮	救急救命医学	1	大学病院にて長年理学療法業務に従事し、十分な臨床実務経験を有する。内部障害チーム所属時はリハ部門内救急救命教育に従事した経験を有する。	
1	佐々木広人	骨関節障害理学療法評価学実習	1	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。	
1	小松佳路	骨関節障害理学療法評価学実習	1	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。	
1	小関友記	神経障害理学療法評価学実習	1	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。	
1	森永雄	神経障害理学療法評価学実習	1	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。	
2	佐々木広人	臨床理学療法評価学演習	2	総合病院、訪問リハビリにて長年の臨床経験を有する。	
2	原 和彦	骨関節障害理学療法学	2	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。	
2	佐々木広人	骨関節障害理学療法学	2	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。	
2	小松佳路	骨関節障害理学療法学	2	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。	
2	原 和彦	骨関節障害理学療法学演習	2	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、骨関節疾患の臨床的理学療法経験及び臨床実習指導経験を有する。	
2	佐々木広人	骨関節障害理学療法学演習	2	整形外科疾患を中心とした病院にて5年以上の臨床経験を有する。	
2	小松佳路	骨関節障害理学療法学演習	2	複数箇所の整形外科クリニックで5年以上の臨床経験を有する。	
2	小関友記	神経障害理学療法学	2	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。	
2	大和田宏美	神経障害理学療法学	2	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。	
2	森永雄	神経障害理学療法学	2	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。	
2	大和田宏美	神経障害理学療法学演習	2	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。	
2	小関友記	神経障害理学療法学演習	2	脳神経外科、神経内科を有する急性期病院において5年以上の臨床経験を有する。	
2	森永雄	神経障害理学療法学演習	2	大学病院（急性期病院）において、脳神経外科と神経内科のリハビリテーション科チームリーダーの経験を有する。加えて、脳神経疾患の専門病院にて臨床経験を有する。	
2	荒牧隼浩	内部障害理学療法学	2	急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。	
2	荒牧隼浩	内部障害理学療法学演習	2	急性期病院において理学療法業務に10年以上従事しており、内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。	
2	大和田宏美	神経筋疾患理学療法学	2	脳神経疾患専門の病院において長年の臨床経験を有する。	
2	網本和	神経筋疾患理学療法学	2	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。	
1	坂上尚穂	神経筋疾患理学療法学	1	神経内科の病院に長年勤務し、多くの対象症例の臨床経験を有する。	
1	大橋孝子	発達障害理学療法学	1	発達障害理学療法に関する理学療法に30年以上従事しておりInternational Certification of Bobath Concept Therapistの資格を有する。	
1	原 和彦	義肢装具学	1	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法に関する長年の臨床経験と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。	
1	鈴木裕治	義肢装具学	1	鈴木：当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加もしている。	
1	原 和彦	義肢装具学演習	1	一般病院、大学病院にて19年の臨床経験の中で、切断の理学療法と学会発表などの研究歴、教科書作成などの経験を有している。	
1	鈴木裕治	義肢装具学演習	1	鈴木：当該教科担当者は医療・福祉施設において理学療法業務に10年以上従事しており臨床における十分な実務経験を有している。また関連する研修会への参加もしている。	
1	坂上尚穂	理学療法学特論	1	本教科担当教員は総合病院などで長年勤務し、豊富な臨床経験を有する。	
1	大橋孝子	地域理学療法学	1	障害領域の相談支援に20年以上従事しており、車椅子・座位保持椅子等の作成に多数かかわっており、在宅障がい者の支援の経験が豊富である。	
1	網本和	理学療法研究法	1	大学病院にて20年以上の臨床経験を有し、その間臨床研究について多数の学会発表、論文作成を行った。	
1	森永雄	地域理学療法学演習	1	地域在住高齢者を対象とした臨床経験・研究あり（フレイル、サルコペニア、生活活動量など）。また、PT協会のフレイル対策推進マネージャー、介護予防推進・地域ケア会議推進リーダーの認定あり。この経験を基に、講義を担当する。	
1	大橋孝子	保健医療福祉連携論	1	障害領域の相談支援に20年以上従事しており、多職種との連携の経験が豊富である。	
58	実務経験を有する教員が担当する科目の単位				
93	設置基準上の標準単位数				

## 2024(令和6)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

### 成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。